

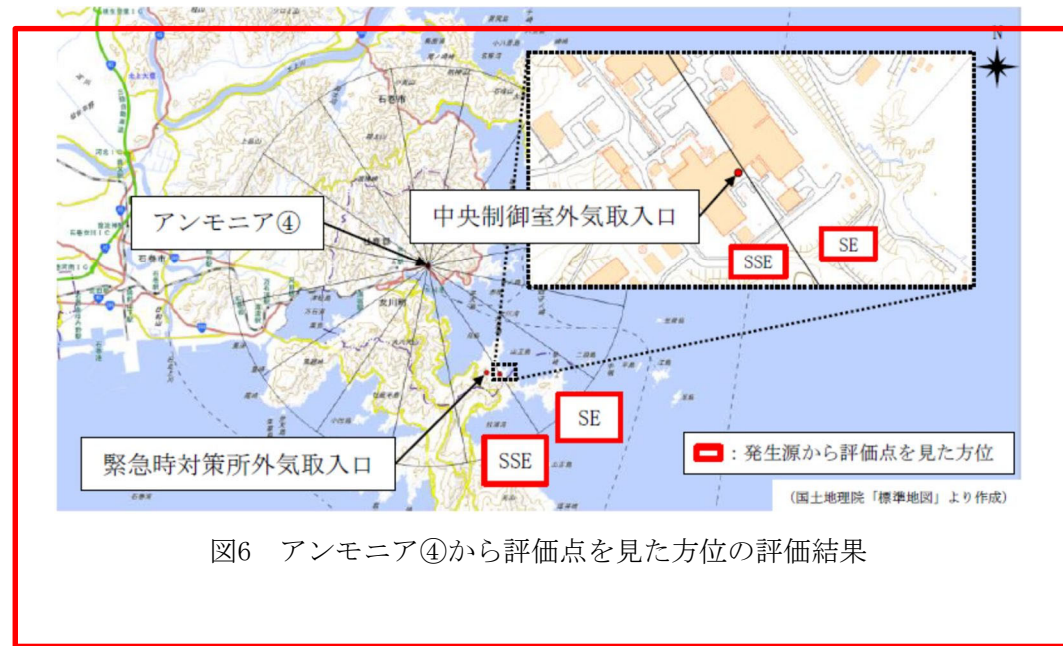
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

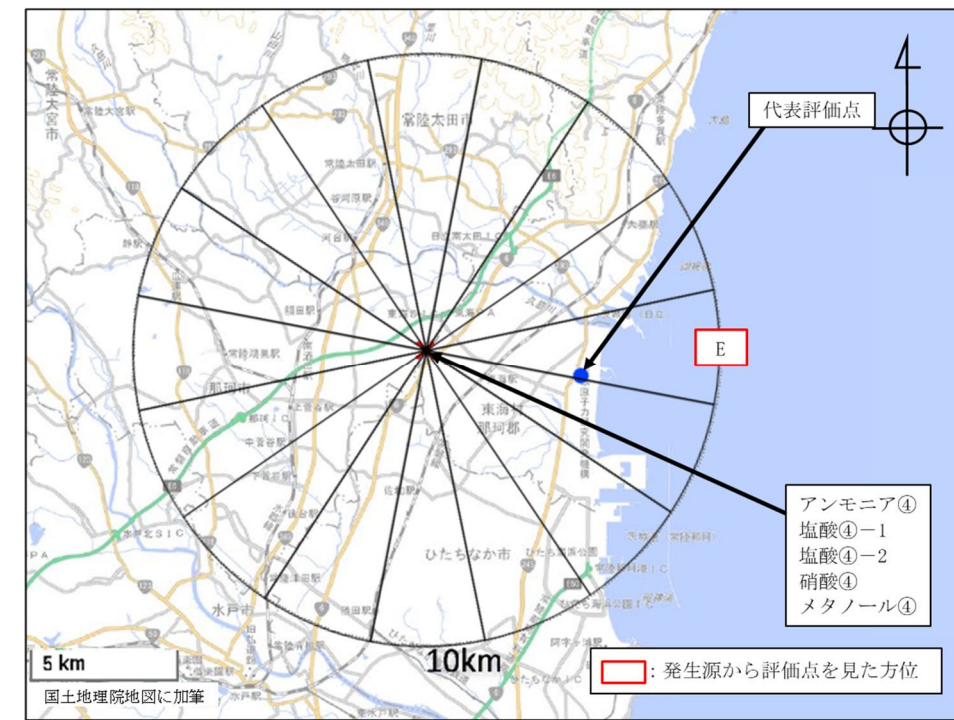
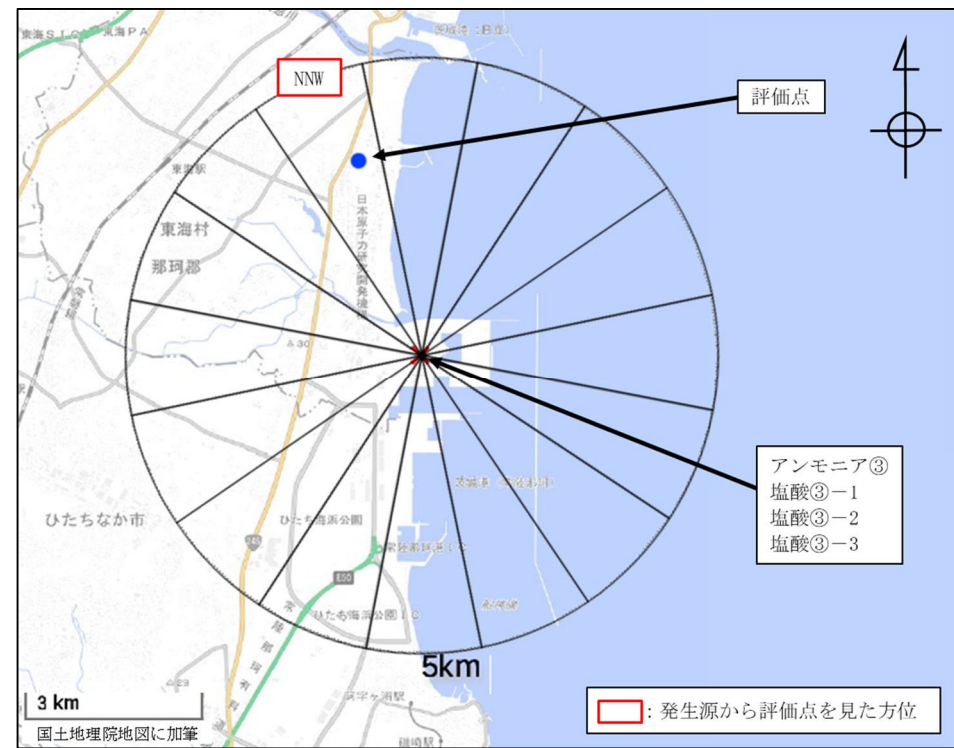
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）



東海第二発電所 有毒ガス



差異理由

・スクリーニング評価の対象の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

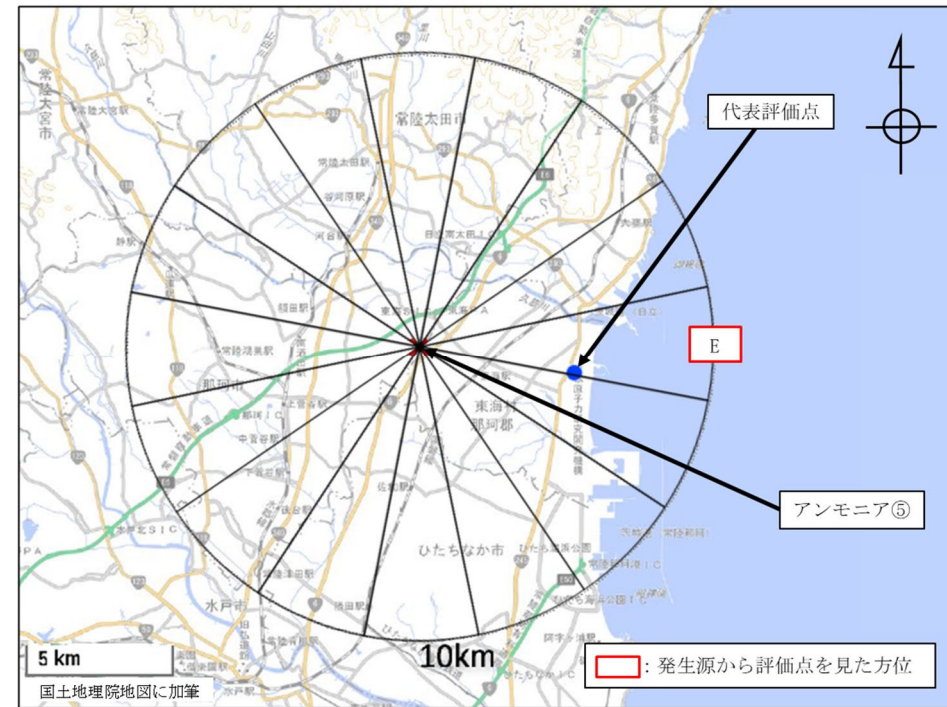
中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）

東海第二発電所 有毒ガス

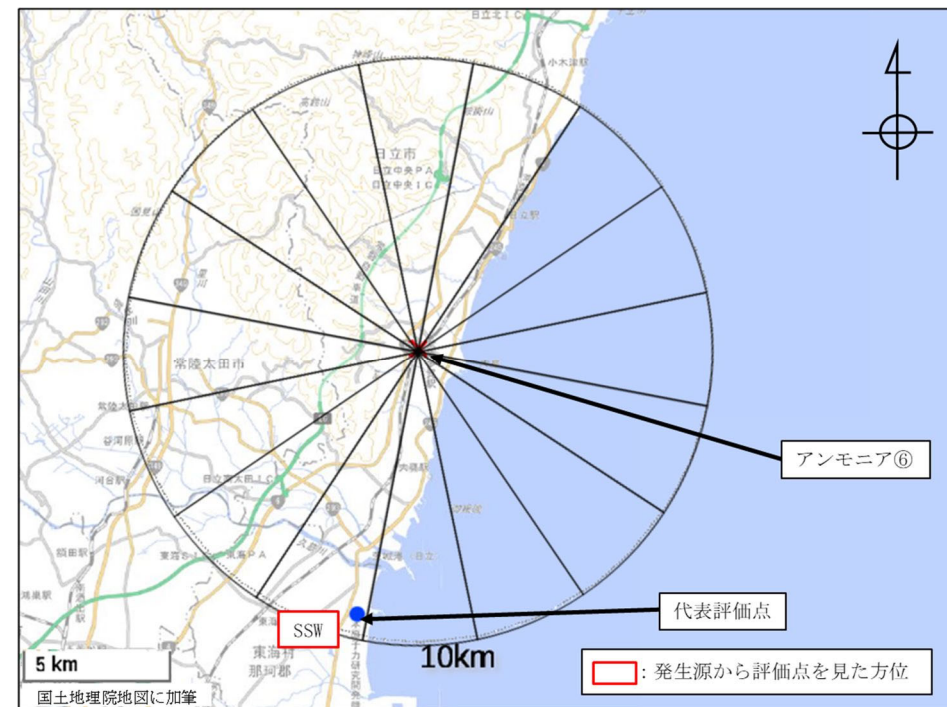
差異理由

・スクリーニング評価の対象の相違



第34図 敷地外固定源から評価点を見た方位

（敷地外固定源⑤－代表評価点：緊急時対策所外気取入口）



第35図 敷地外固定源から評価点を見た方位

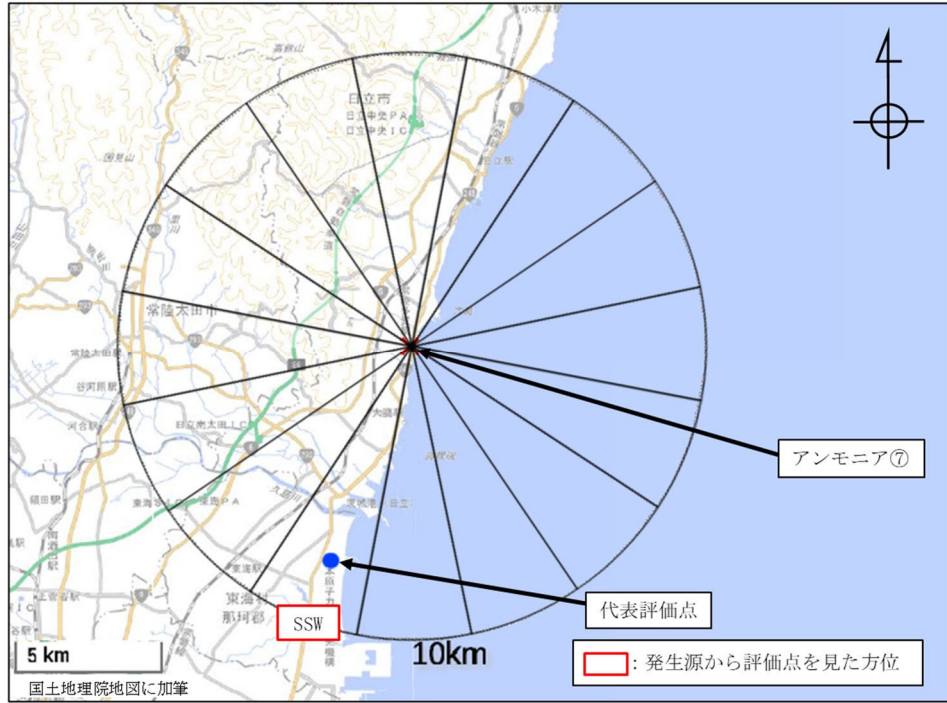
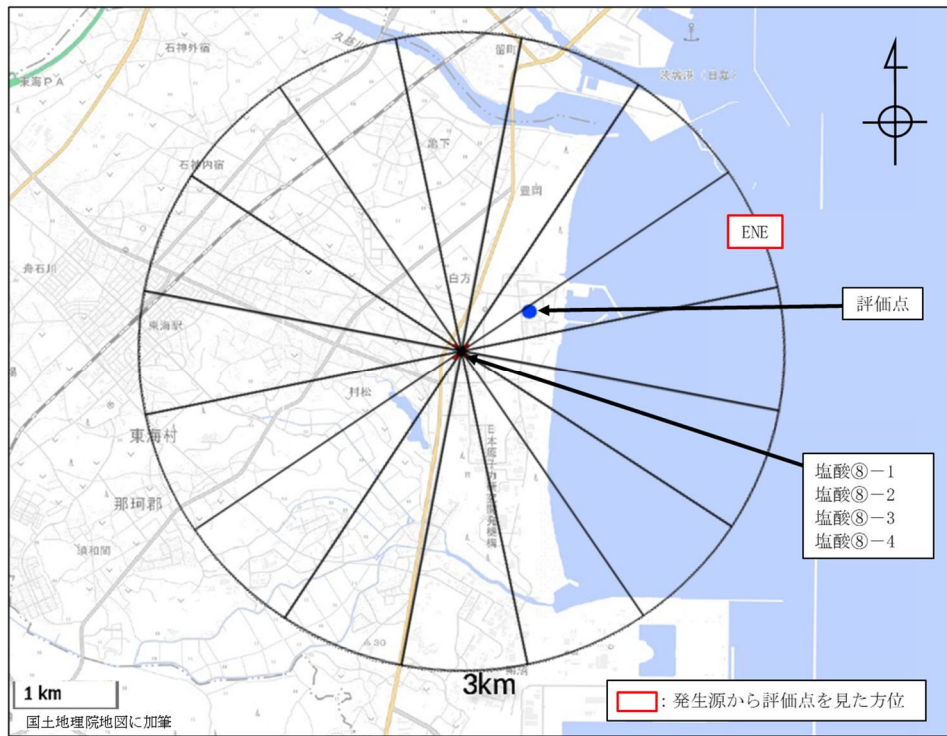
（敷地外固定源⑥－代表評価点：外気取入口）

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室，緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
	 <p>第36図 敷地外固定源から評価点を見た方位 (敷地外固定源⑦—代表評価点：[] 外気取入口)</p>  <p>第37図 敷地外固定源から評価点を見た方位 (1/2) (敷地外固定源⑧—評価点：中央制御室外気取入口)</p>	<p>差異理由</p> <ul style="list-style-type: none">・スクリーニング評価の対象の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

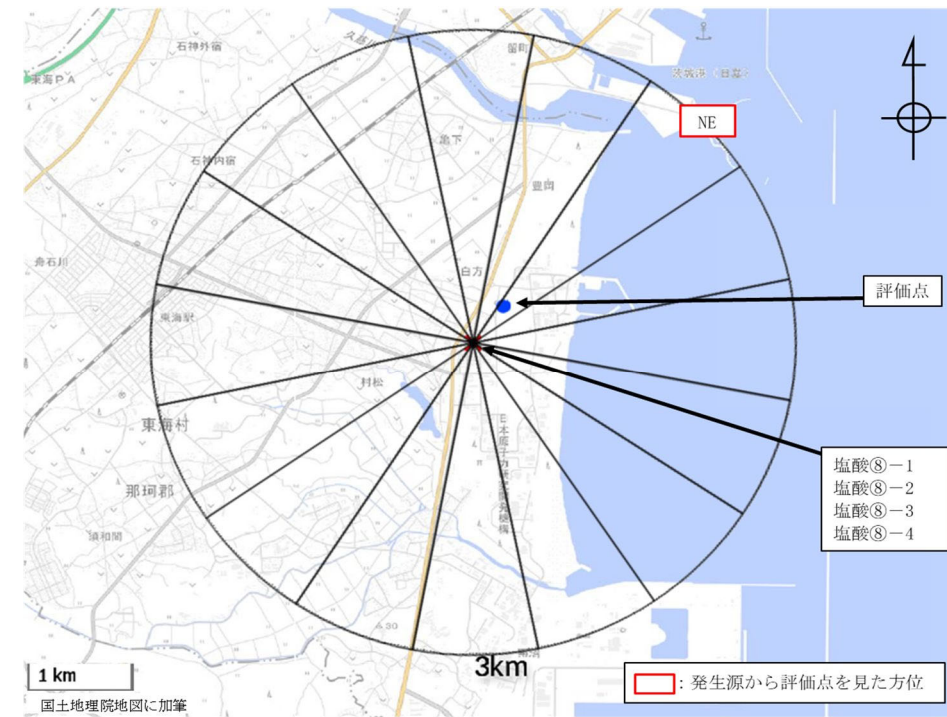
中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）

東海第二発電所 有毒ガス

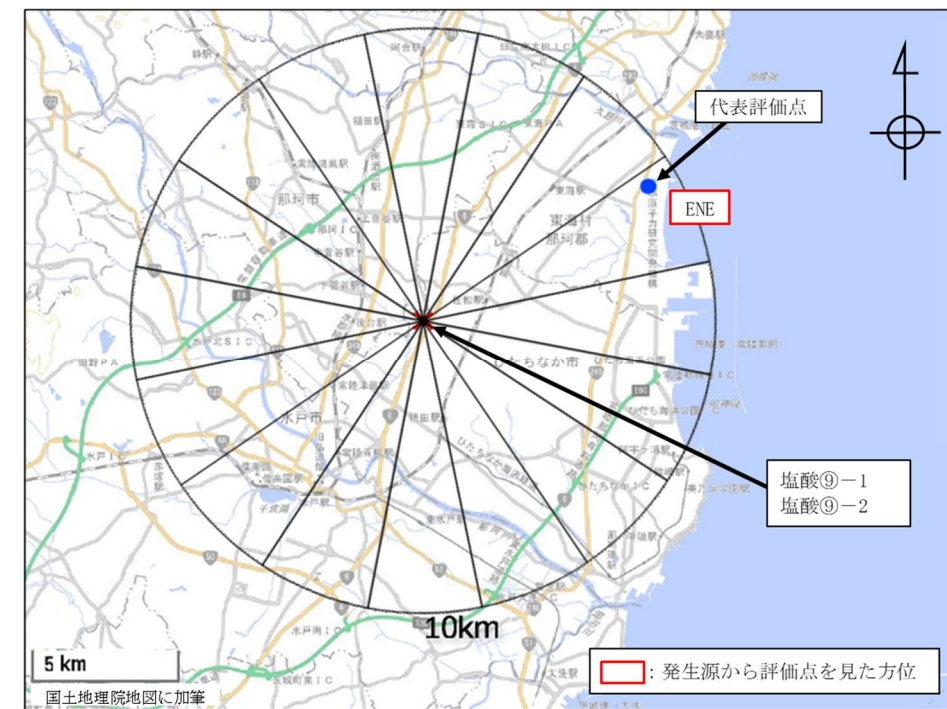
差異理由

・スクリーニング評価の対象の相違



第37図 敷地外固定源から評価点を見た方位（2/2）

（敷地外固定源⑧－評価点：緊急時対策所外気取入口）



第38図 敷地外固定源から評価点を見た方位

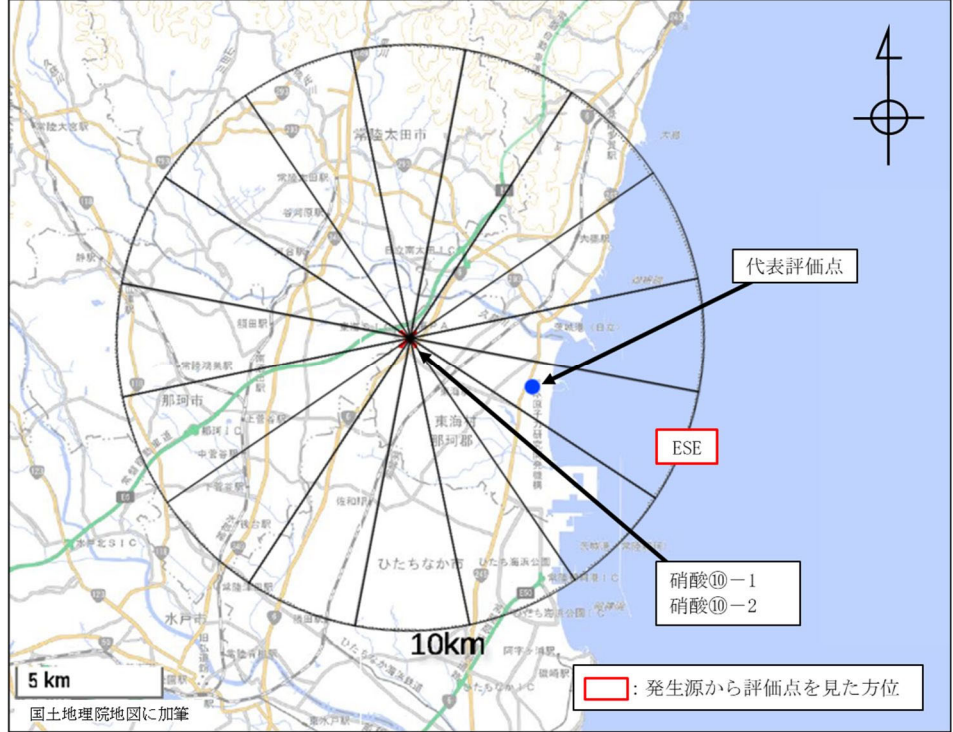
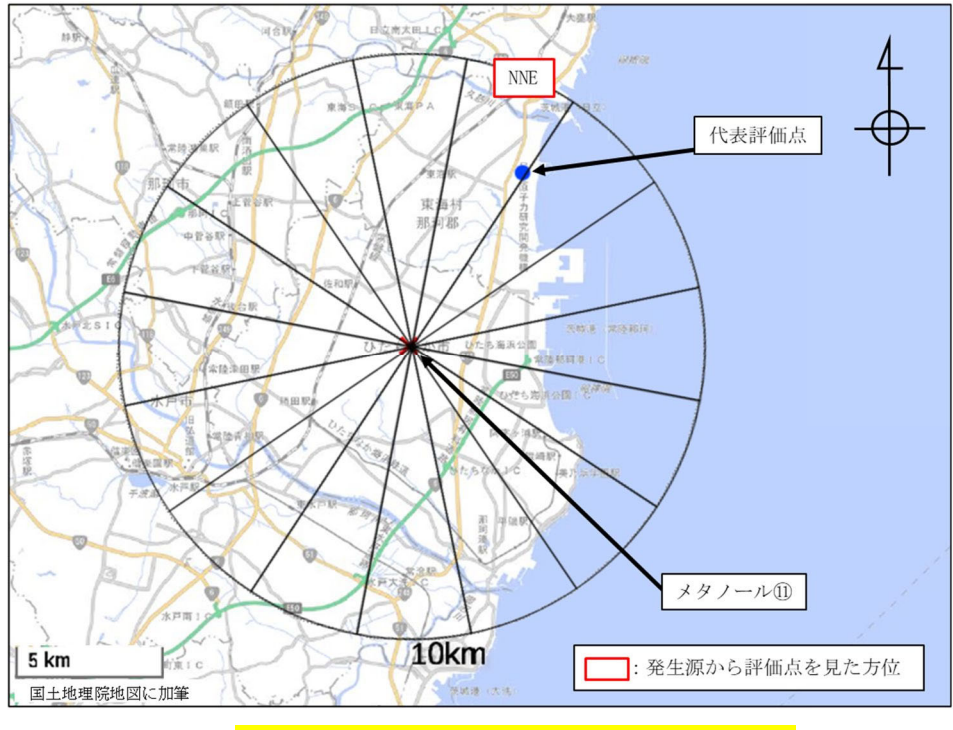
（敷地外固定源⑨－代表評価点：緊急時対策所外気取入口）

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
	 <p>第39図 敷地外固定源から評価点を見た方位 (敷地外固定源⑩-代表評価点：緊急時対策所外気取入口)</p>  <p>第40図 敷地外固定源から評価点を見た方位 (敷地外固定源⑩-代表評価点：[] 外気取入口)</p>	<p>差異理由</p> <ul style="list-style-type: none">・スクリーニング評価の対象の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

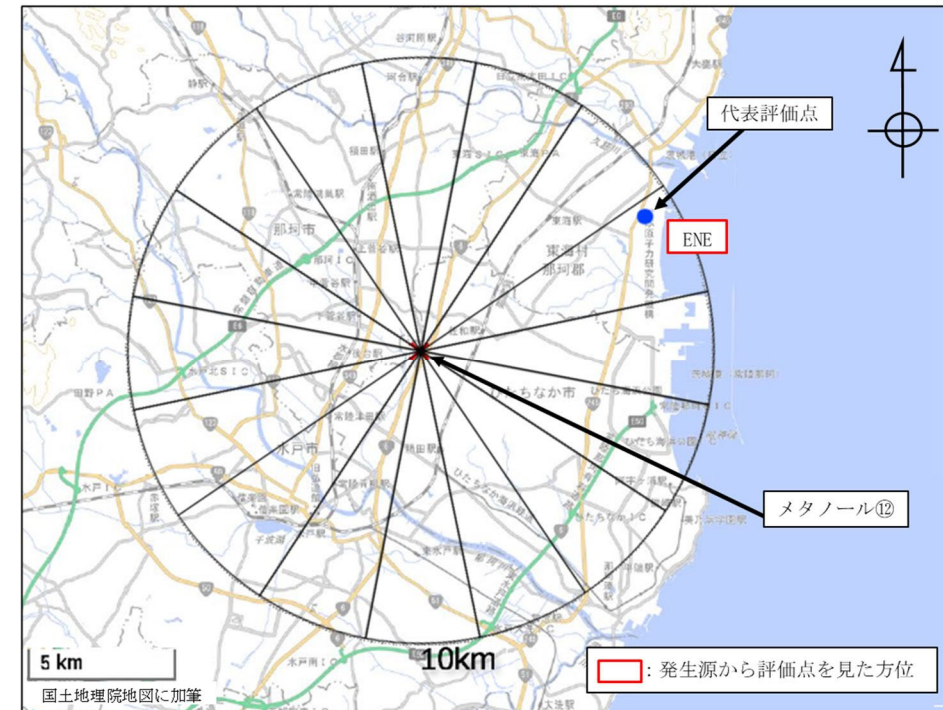
中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）

東海第二発電所 有毒ガス

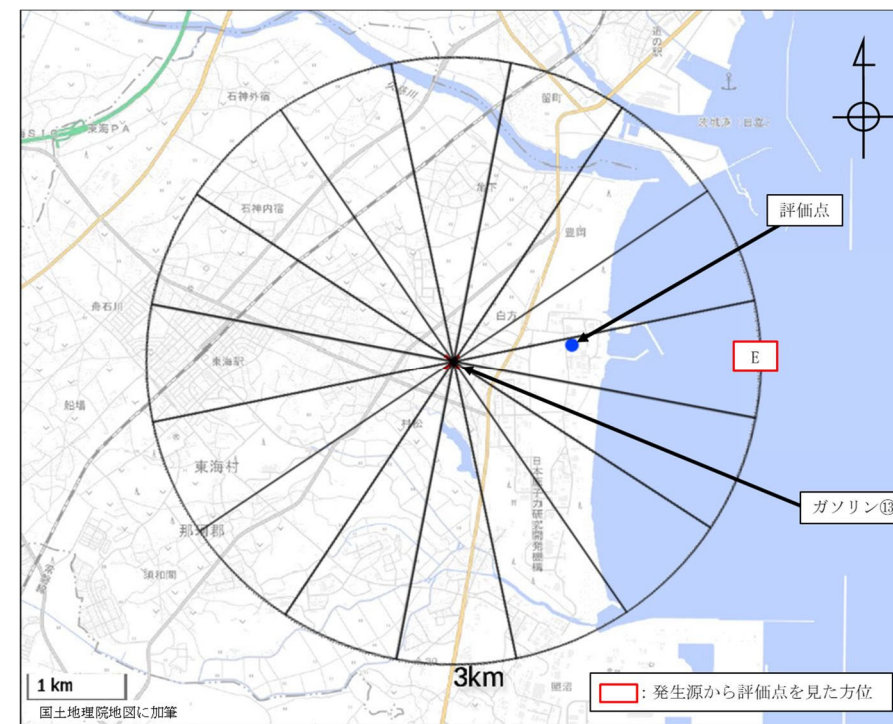
差異理由

・スクリーニング評価の対象の相違



第41図 敷地外固定源から評価点を見た方位

（敷地外固定源⑫—代表評価点：緊急時対策所外気取入口）



第42図 敷地外固定源から評価点を見た方位（1/2）

（敷地外固定源⑬—評価点：中央制御室外気取入口）

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）

東海第二発電所 有毒ガス

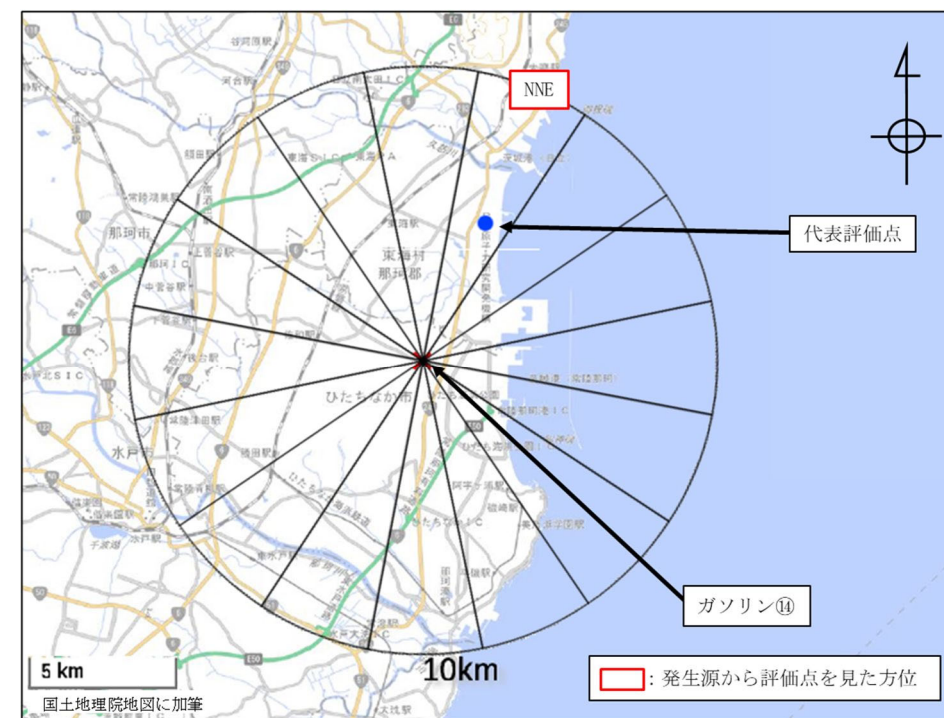
差異理由

・スクリーニング評価の対象の相違



第42図 敷地外固定源から評価点を見た方位（2/2）

（敷地外固定源⑬－評価点：緊急時対策所外気取入口）



第43図 敷地外固定源から評価点を見た方位

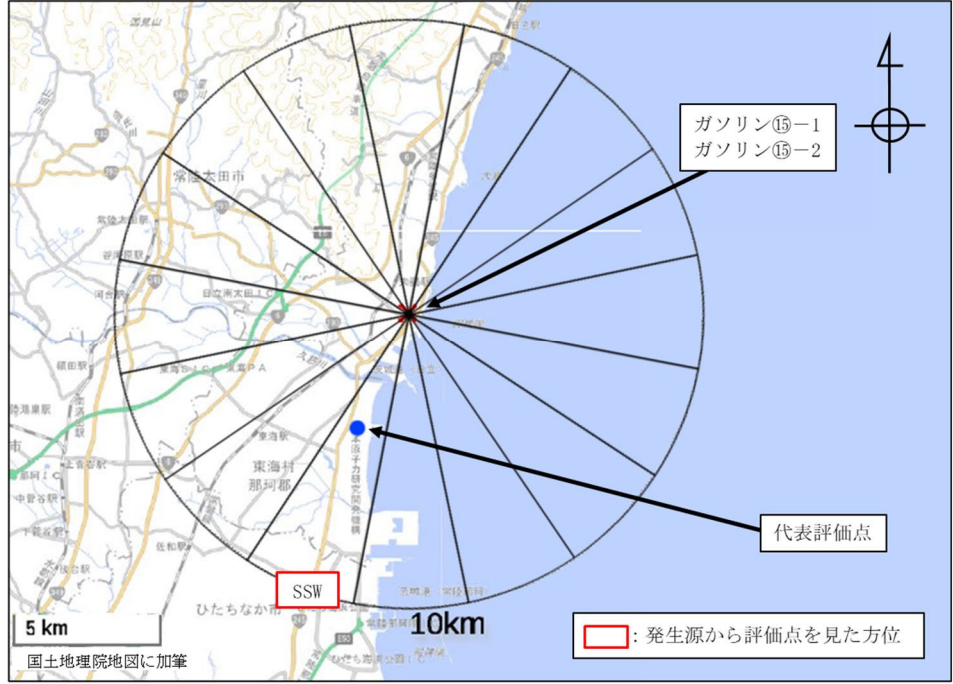
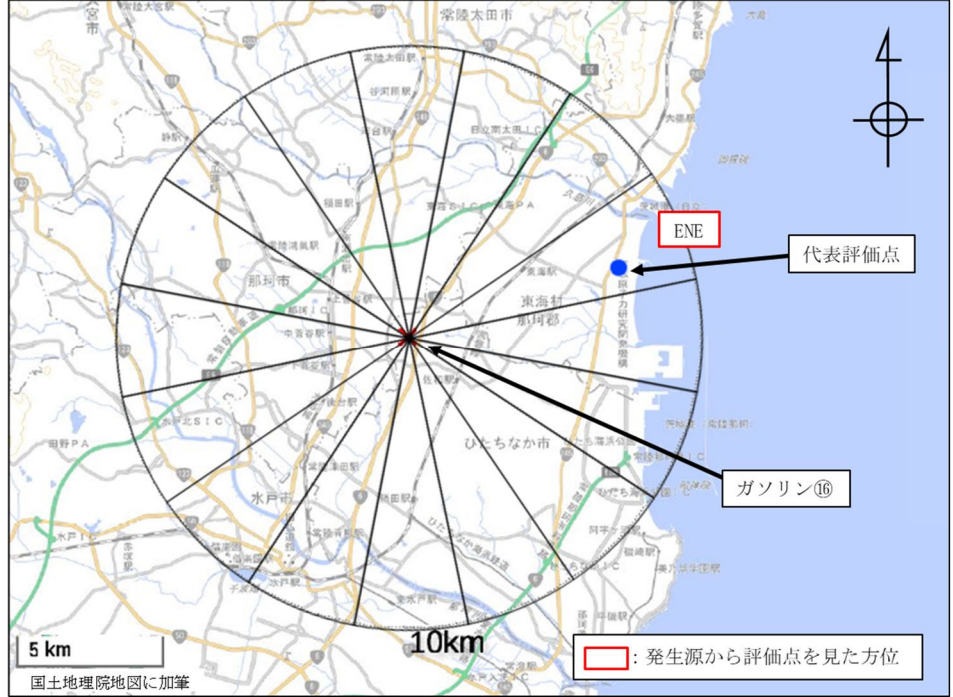
（敷地外固定源⑭－代表評価点：外気取入口）

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

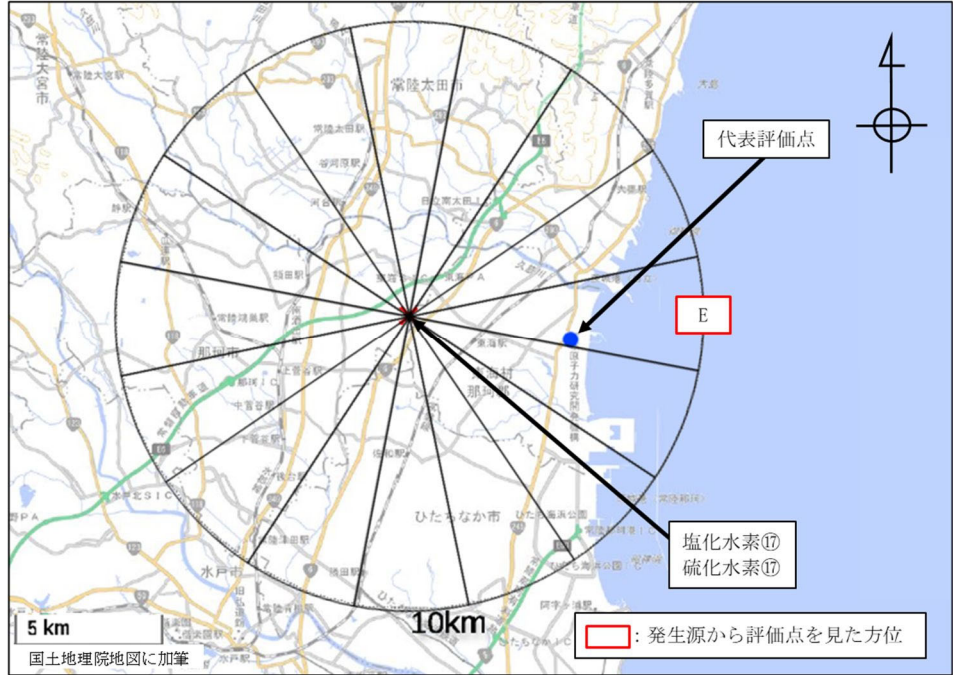
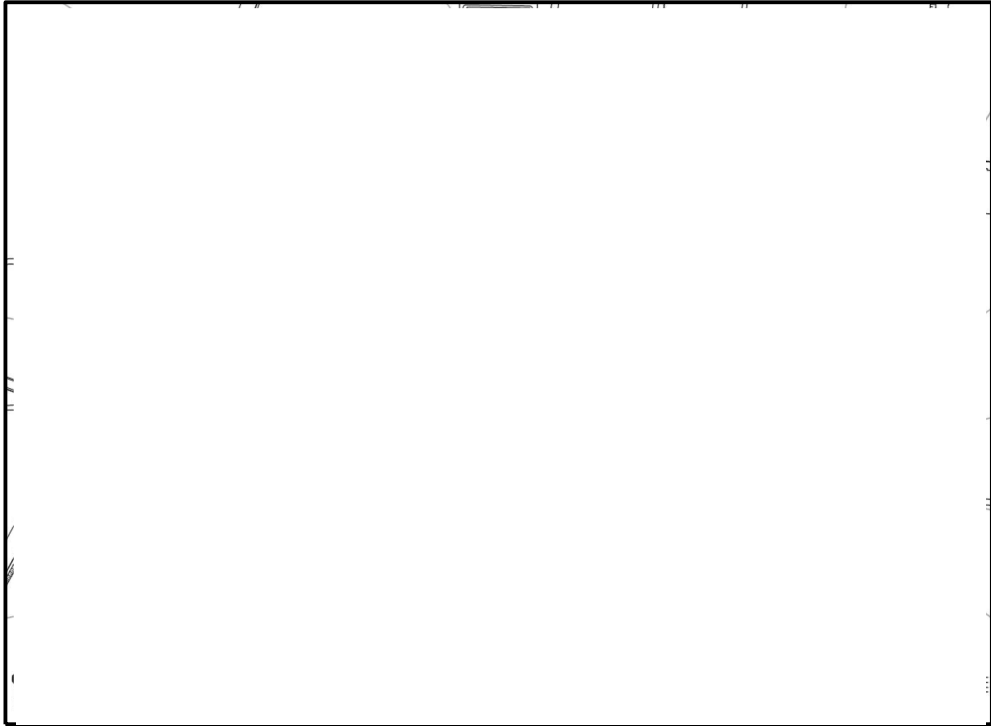
女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
	 <p>第44図 敷地外固定源から評価点を見た方位 （敷地外固定源⑮-代表評価点 外気取入口）</p>  <p>第45図 敷地外固定源から評価点を見た方位 （敷地外固定源⑯-代表評価点：緊急時対策所外気取入口）</p>	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

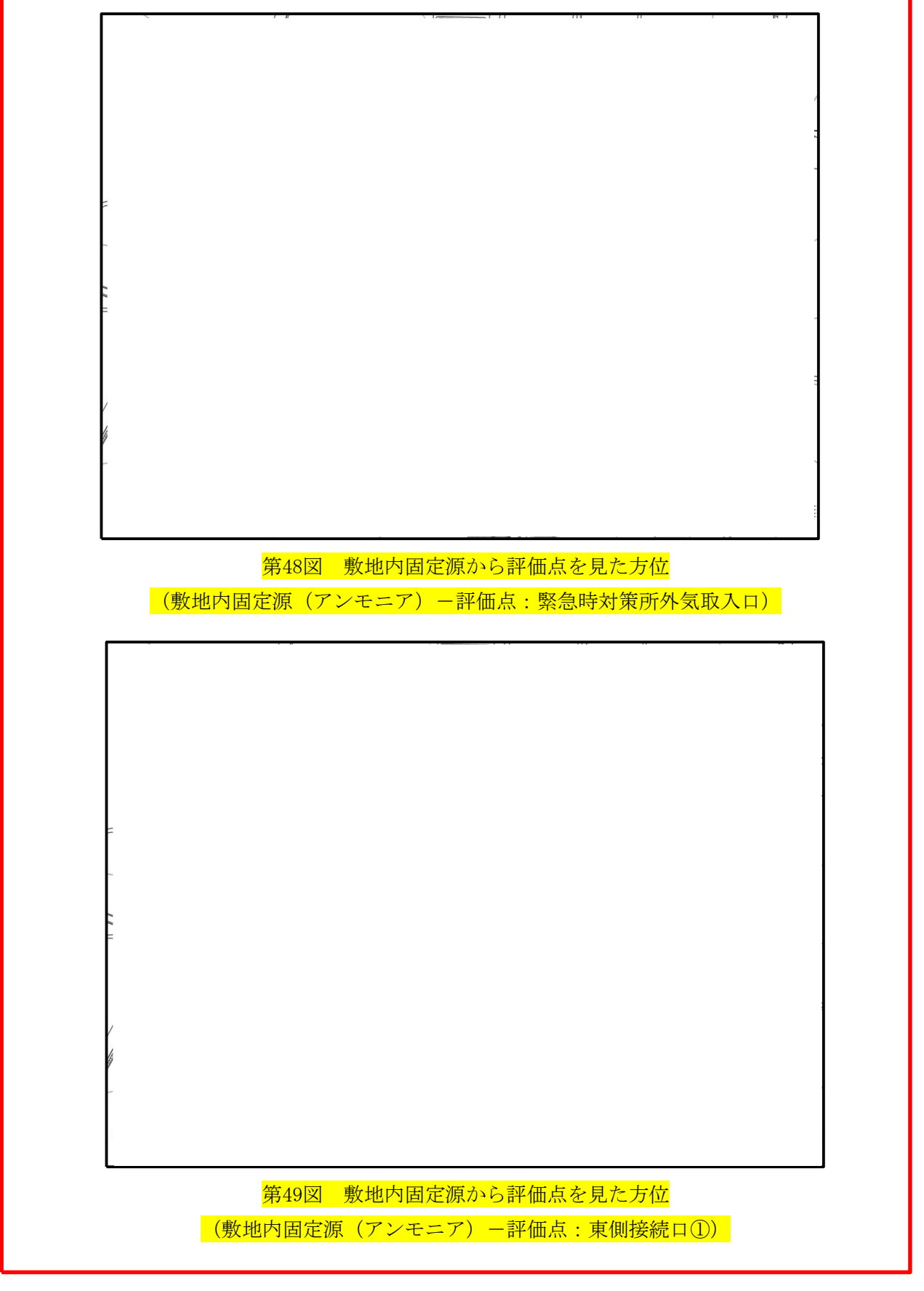
女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
	 <p>第46図 敷地外固定源から評価点を見た方位 (敷地外固定源⑰－代表評価点：緊急時対策所外気取入口)</p>  <p>第47図 敷地内固定源から評価点を見た方位 (敷地内固定源（アンモニア）－評価点：中央制御室外気取入口)</p>	<p>差異理由</p> <ul style="list-style-type: none">・スクリーニング評価の対象の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

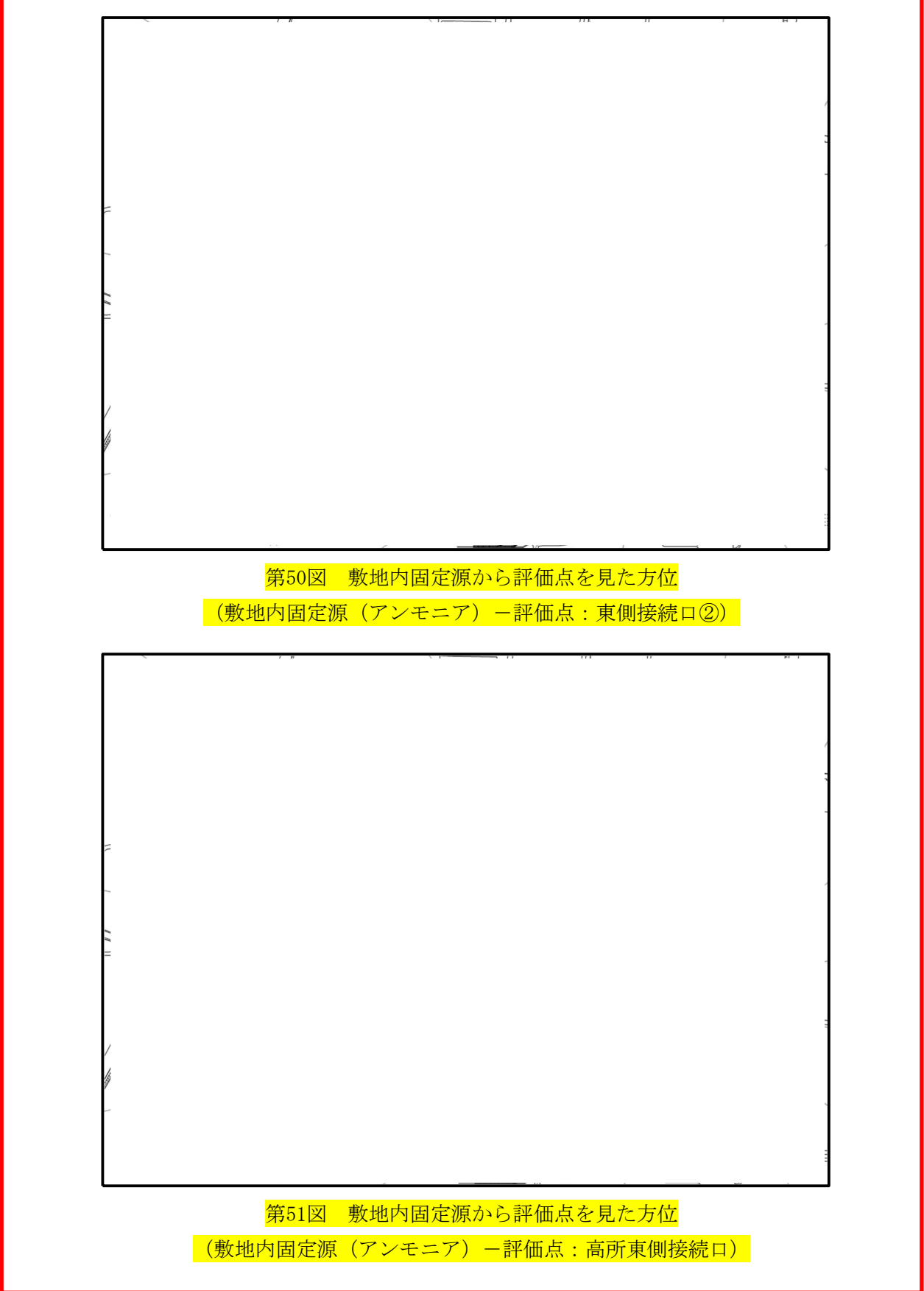
女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
	 <p>第48図 敷地内固定源から評価点を見た方位 (敷地内固定源（アンモニア）－評価点：緊急時対策所外気取入口)</p> <p>第49図 敷地内固定源から評価点を見た方位 (敷地内固定源（アンモニア）－評価点：東側接続口①)</p>	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

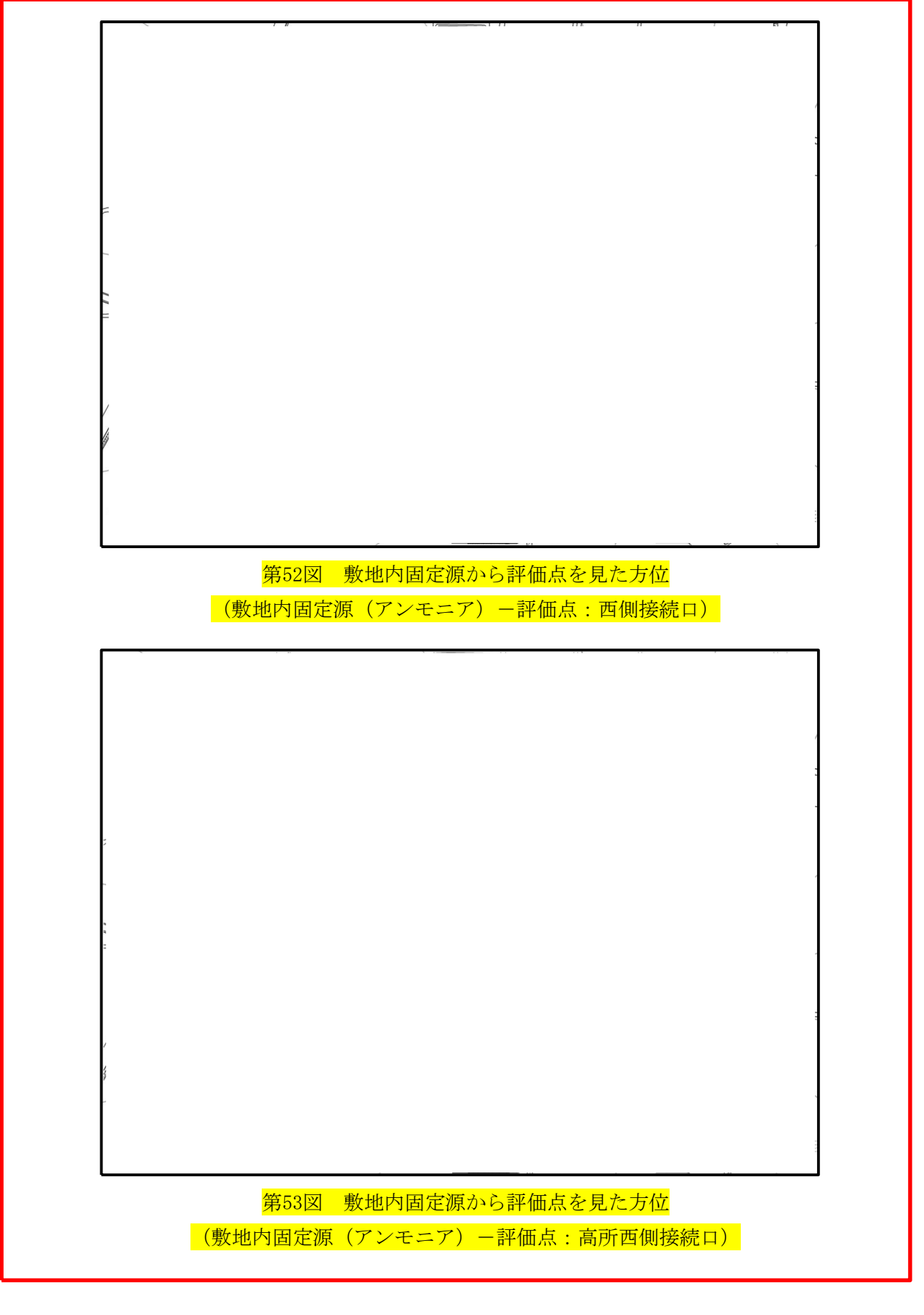
女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
	 <p data-bbox="1596 982 2273 1060">第50図 敷地内固定源から評価点を見た方位 (敷地内固定源（アンモニア）－評価点：東側接続口②)</p> <p data-bbox="1596 1791 2273 1869">第51図 敷地内固定源から評価点を見た方位 (敷地内固定源（アンモニア）－評価点：高所東側接続口)</p>	<p data-bbox="2555 275 2878 352">・スクリーニング評価の対象の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
	 <p>第52図 敷地内固定源から評価点を見た方位 （敷地内固定源（アンモニア）－評価点：西側接続口）</p> <p>第53図 敷地内固定源から評価点を見た方位 （敷地内固定源（アンモニア）－評価点：高所西側接続口）</p>	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室，緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
<p>(5) 高低差について 敷地外固定源の標高については確認している（本文 第 3.1.3-1 表を参照）が、スクリーニング評価においては、評価の保守性の観点から、敷地外固定源と評価点との高低差を考慮せず、地上放出として取り扱う。</p> <p>(6) まとめ 各評価点と敷地外固定源との位置関係を表 1 に示す。</p>	<p>6. 評価設定条件のまとめ 発生源と評価点との位置関係を第 1 表及び第 2 表に示す。</p>	<p>・ 記載箇所の相違</p> <p>・ 記載表現の相違</p> <p>・ 記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）

東海第二発電所 有毒ガス

差異理由

表1 各評価点と敷地外固定源との位置関係

評価点	敷地外固定源	発生源から評価点を見た方位	距離 ^{※1} (m)	高低差 ^{※2} (m)
中央制御室 外気取入口	アンモニア①	SE	6300	—
	アンモニア②	SE	6700	—
	アンモニア③	WNW	2400	—
	アンモニア④	SSE	6400	—
緊急時対策所 外気取入口	アンモニア①	SSE	5900	—
	アンモニア②	SE	6300	—
	アンモニア③	WNW	3000	—
	アンモニア④	SSE	6000	—

※1：100m未満切り捨て

※2：評価点との高低差を考慮せず地上放出として取り扱う

第1表 敷地外固定源と評価点との位置関係

敷地外固定源	距離 ^{※1} (m)	評価点	高低差 ^{※2} (m)	着目方位 ^{※3}
①	7300		—	NE
②	7500		—	NE
③	3300	中央制御室外気取入口	—	NNW
	3400	緊急時対策所外気取入口	—	NNW
④	5300	緊急時対策所外気取入口	—	E
⑤	5300	緊急時対策所外気取入口	—	E
⑥	9300		—	SSW
⑦	7800		—	SSW
⑧	720	中央制御室外気取入口	—	ENE
	440	緊急時対策所外気取入口	—	NE
⑨	8900	緊急時対策所外気取入口	—	ENE
⑩	4500	緊急時対策所外気取入口	—	ESE
⑪	7000		—	NNE
⑫	8900	緊急時対策所外気取入口	—	ENE
⑬	1100	中央制御室外気取入口	—	E
	840	緊急時対策所外気取入口	—	E
⑭	5100		—	NNE
⑮	4200		—	SSW
⑯	7500	緊急時対策所外気取入口	—	ENE
⑰	5500	緊急時対策所外気取入口	—	E

※1 100m未満もしくは10m未満を切り捨てた値を記載

※2 評価点との高低差を考慮せず地上放出として取り扱う。

※3 発生源から評価点を見た方位

・スクリーニング評価の対象の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）

東海第二発電所 有毒ガス

差異理由

第2表 敷地内固定源と評価点との位置関係

敷地内固定源	距離 ^{※1} (m)	評価点	高低差 ^{※2} (m)	着目方位 ^{※3}
熔融炉 アンモニア タンク	145	中央制御室外気取入口	約 20	NW, <u>WNW</u> , W, WSW
	480	緊急時対策所外気取入口	約 37	<u>W</u> , WSW
	95	東側接続口①	0	NNW, NW, <u>WNW</u> , W, WS W
	85	東側接続口②	0	NNW, NW, <u>WNW</u> , W, WS W, SW
	230	高所東側接続口	約 3	W, WSW, SW
	150	西側接続口	0	NNW, NW, <u>WNW</u> , W, WS W, SW
	280	高所西側接続口	約 3	W, WSW, SW

※1 5m未満を切り捨てた値を記載

※2 評価点との高低差を考慮せず地上放出として取り扱う。

※3 発生源から評価点を見た方位(主方位を下線で示す。)

・スクリーニング評価の対象の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
	<p>7. 蒸発率等及び相対濃度の評価について</p> <p>発生源ごとに、有毒化学物質の性状及び保管状態から放出形態を想定し、有毒ガスの単位時間当たりの大気中への放出量及びその継続時間を評価する。液体状の発生源については、防液堤内に漏えいしたあとは、堰面積、温度等に応じた蒸発率で蒸発するものとする。</p> <p>(1) 蒸発率について</p> <p>蒸発率は、文献「Modeling Hydrochloric Acid Evaporation in ALOHA」及び「伝熱工学資料（改訂第5版 日本機械学会）」に基づき、以下に示す計算式で評価する。</p> <p>・蒸発率 E</p> $E = A \times K_M \times \left(\frac{M_w \times P_v}{R \times T} \right) \quad \dots(3-1)$ <p>・物質移動係数 K_M</p> $K_M = 0.0048 \times U^{\frac{7}{9}} \times Z^{-\frac{1}{9}} \times S_c^{-\frac{2}{3}} \quad \dots(3-2)$ $S_c = \frac{v}{D_M} \quad \dots(3-3)$ $D_M = D_{H_2O} \times \sqrt{\frac{M_{WH_2O}}{M_{Wm}}} \quad \dots(3-4)$ $D_{H_2O} = D_0 \times \left(\frac{T}{273.15} \right)^{1.75} \quad \dots(3-5)$ <p>・蒸発率補正 E_C</p> $E_C = - \left(\frac{P_a}{P_v} \right) \ln \left(1 - \frac{P_v}{P_a} \right) \times E \quad \dots(3-6)$	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																																																																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>単位</th> <th>記号の意味</th> <th>代入値</th> <th>代入値又は算出式の根拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>K_M</td> <td>m/s</td> <td>化学物質の物質移動係数</td> <td>-</td> <td>・式3-2により算出</td> </tr> <tr> <td>M_w, M_{w_m}</td> <td>kg/kmol</td> <td>化学物質のモル質量</td> <td>-</td> <td>・物性値</td> </tr> <tr> <td>P_a</td> <td>Pa</td> <td>大気圧</td> <td>101,325</td> <td>・標準大気圧 文献：理科年表 平成31年（机上版） 丸善出版</td> </tr> <tr> <td>P_v</td> <td>Pa</td> <td>化学物質の分圧</td> <td>-</td> <td>・物性値</td> </tr> <tr> <td>R</td> <td>J/kmol・K</td> <td>気体定数</td> <td>8314.45</td> <td>・気体定数 文献：理科年表 平成31年（机上版） 丸善出版</td> </tr> <tr> <td>T</td> <td>K</td> <td>温度</td> <td>-</td> <td>・気象データ</td> </tr> <tr> <td>U</td> <td>m/s</td> <td>風速</td> <td>-</td> <td>・気象データ</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>m²</td> <td>堰面積</td> <td>-</td> <td>・固定源に設置されている防液堤の堰面積</td> </tr> <tr> <td>Z</td> <td>m</td> <td>プール直径</td> <td>-</td> <td>・堰面積より算出 ($Z = (4/\pi \times A)^{0.5}$)</td> </tr> <tr> <td>$S_c$</td> <td>-</td> <td>化学物質のシュミット数</td> <td>-</td> <td>・式3-3により算出</td> </tr> <tr> <td>ν</td> <td>m²/s</td> <td>空気の動粘性係数</td> <td>-</td> <td>・雰囲気温度 (T) と大気圧における空気の密度及び粘性係数の文献値より算出 ($\nu = \text{粘性係数} / \text{密度}$) 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会</td> </tr> <tr> <td>D_M</td> <td>m²/s</td> <td>化学物質の分子拡散係数</td> <td>-</td> <td>・式3-4により算出</td> </tr> <tr> <td>D_0</td> <td>m²/s</td> <td>水の拡散係数</td> <td>2.2×10^{-5}</td> <td>・定数（温度0℃、大気圧P_aのとき） 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会</td> </tr> <tr> <td>D_{H_2O}</td> <td>m²/s</td> <td>水の分子拡散係数</td> <td>-</td> <td>・式3-5により算出（温度T、圧力P_0のとき）</td> </tr> <tr> <td>M_{WH_2O}</td> <td>kg/kmol</td> <td>水のモル質量</td> <td>18.015</td> <td>・物性値 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会</td> </tr> </tbody> </table>	記号	単位	記号の意味	代入値	代入値又は算出式の根拠	K_M	m/s	化学物質の物質移動係数	-	・式3-2により算出	M_w, M_{w_m}	kg/kmol	化学物質のモル質量	-	・物性値	P_a	Pa	大気圧	101,325	・標準大気圧 文献：理科年表 平成31年（机上版） 丸善出版	P_v	Pa	化学物質の分圧	-	・物性値	R	J/kmol・K	気体定数	8314.45	・気体定数 文献：理科年表 平成31年（机上版） 丸善出版	T	K	温度	-	・気象データ	U	m/s	風速	-	・気象データ	A	m ²	堰面積	-	・固定源に設置されている防液堤の堰面積	Z	m	プール直径	-	・堰面積より算出 ($Z = (4/\pi \times A)^{0.5}$)	S_c	-	化学物質のシュミット数	-	・式3-3により算出	ν	m ² /s	空気の動粘性係数	-	・雰囲気温度 (T) と大気圧における空気の密度及び粘性係数の文献値より算出 ($\nu = \text{粘性係数} / \text{密度}$) 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会	D_M	m ² /s	化学物質の分子拡散係数	-	・式3-4により算出	D_0	m ² /s	水の拡散係数	2.2×10^{-5}	・定数（温度0℃、大気圧 P_a のとき） 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会	D_{H_2O}	m ² /s	水の分子拡散係数	-	・式3-5により算出（温度 T 、圧力 P_0 のとき）	M_{WH_2O}	kg/kmol	水のモル質量	18.015	・物性値 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>
記号	単位	記号の意味	代入値	代入値又は算出式の根拠																																																																														
K_M	m/s	化学物質の物質移動係数	-	・式3-2により算出																																																																														
M_w, M_{w_m}	kg/kmol	化学物質のモル質量	-	・物性値																																																																														
P_a	Pa	大気圧	101,325	・標準大気圧 文献：理科年表 平成31年（机上版） 丸善出版																																																																														
P_v	Pa	化学物質の分圧	-	・物性値																																																																														
R	J/kmol・K	気体定数	8314.45	・気体定数 文献：理科年表 平成31年（机上版） 丸善出版																																																																														
T	K	温度	-	・気象データ																																																																														
U	m/s	風速	-	・気象データ																																																																														
A	m ²	堰面積	-	・固定源に設置されている防液堤の堰面積																																																																														
Z	m	プール直径	-	・堰面積より算出 ($Z = (4/\pi \times A)^{0.5}$)																																																																														
S_c	-	化学物質のシュミット数	-	・式3-3により算出																																																																														
ν	m ² /s	空気の動粘性係数	-	・雰囲気温度 (T) と大気圧における空気の密度及び粘性係数の文献値より算出 ($\nu = \text{粘性係数} / \text{密度}$) 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会																																																																														
D_M	m ² /s	化学物質の分子拡散係数	-	・式3-4により算出																																																																														
D_0	m ² /s	水の拡散係数	2.2×10^{-5}	・定数（温度0℃、大気圧 P_a のとき） 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会																																																																														
D_{H_2O}	m ² /s	水の分子拡散係数	-	・式3-5により算出（温度 T 、圧力 P_0 のとき）																																																																														
M_{WH_2O}	kg/kmol	水のモル質量	18.015	・物性値 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会																																																																														
<p>2. 大気拡散評価について</p> <p>相対濃度は、気象指針の大気拡散の評価式である(1)式及び(2-1)、(2)式に従い、各評価点と敷地外固定源との位置関係に基づき評価する。</p> <p>スクリーニング評価に使用する相対濃度は、大気拡散の評価式により求めた相対濃度のうち年間毎時刻での外気濃度を小さい方から順に並べ、累積出現頻度97%に当たる値とする。</p> <p>累積出現頻度97%に当たる値が得られない場合においては、累積出現頻度98%に当たる値をスクリーニング評価に使用する。</p> <p>実効放出継続時間は、気象指針に示された実効放出継続時間のうち最も短い1時間とする。</p> <p>解析に用いる気象条件は、女川原子力発電所の安全解析に使用している気象（2012年1月～2012年12月）とする。</p>	<p>(2) 相対濃度について</p> <p>相対濃度は、「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針」（以下「気象指針」という。）の大気拡散の評価式である(1)式、(2-1)式及び(2-2)式に従い、発生源と評価点との位置関係に基づき評価する。</p> <p>評価に使用する相対濃度は、大気拡散の評価式により年間毎時刻の気象データから求める。</p> <p>実効放出継続時間は、大気拡散の評価式で設定できる最短時間である1時間とする。</p> <p>評価に用いる気象条件は、東海第二発電所の安全解析に使用している気象期間（2005年4月～2006年3月）のデータとする。</p>	<p>・記載表現の相違</p> <p>・記載表現の相違</p> <p>・記載表現の相違</p> <p>・スクリーニング評価の対象の相違</p> <p>・スクリーニング評価の対象の相違</p> <p>・記載表現の相違</p> <p>・記載表現の相違</p> <p>・評価に使用する気象データの相違</p>																																																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
<p>大気拡散評価の条件を表2に、相対濃度の累積出現頻度の評価結果を図15に示す。 なお、評価点と敷地内可動源は十分に離隔していることから、建屋影響の考慮は実施していない。</p> $\chi/Q = \frac{1}{T} \sum_{i=1}^T (\chi/Q)_i \cdot \delta_i \quad \dots(1)$ <p>(建屋影響を考慮しない場合)</p> $(\chi/Q)_i = \frac{1}{\pi \cdot \sigma_{yi} \cdot \sigma_{zi} \cdot U_i} \cdot \exp\left(-\frac{H^2}{2\sigma_{zi}^2}\right) \quad \dots(2-1)$ <p>(建屋影響を考慮する場合)</p> $(\chi/Q)_i = \frac{1}{\pi \cdot \Sigma_{yi} \cdot \Sigma_{zi} \cdot U_i} \cdot \exp\left(-\frac{H^2}{2\Sigma_{zi}^2}\right) \quad \dots(2-2)$ <p>χ/Q : 実効放出継続時間中の相対濃度 (s/m³) T : 実効放出継続時間 (h) $(\chi/Q)_i$: 時刻<i>i</i>における相対濃度(s/m³) δ_i : 時刻<i>i</i>において風向が当該方位<i>d</i>にあるとき $\delta_i=1$ 時刻<i>i</i>において風向が当該方位<i>d</i>にないとき $\delta_i=0$ σ_{yi} : 時刻<i>i</i>における濃度分布のy方向の拡がりのパラメータ (m) σ_{zi} : 時刻<i>i</i>における濃度分布のz方向の拡がりのパラメータ (m) U_i : 時刻<i>i</i>における風速 (m/s) H : 放出源の有効高さ (m) Σ_{yi} : $\left(\sigma_{yi}^2 + \frac{cA}{\pi}\right)^{1/2}$ Σ_{zi} : $\left(\sigma_{zi}^2 + \frac{cA}{\pi}\right)^{1/2}$ A : 建屋等の風向方向の投影面積 (m²) c : 形状係数</p>	<p>なお、気象指針に基づき、発生源から評価点を見た方位を評価する。 また、評価の保守性の観点から、発生源と評価点との高低差を考慮せず、地上放出として取り扱う。 大気拡散評価の条件を第3表に、蒸発率等及び相対濃度の評価結果を第4表及び第5表に示す。</p> $\chi/Q = \frac{1}{T} \sum_{i=1}^T (\chi/Q)_i \cdot \delta_i \quad \dots(1)$ <p>(建屋影響を考慮しない場合)</p> $(\chi/Q)_i = \frac{1}{\pi \cdot \sigma_{yi} \cdot \sigma_{zi} \cdot U_i} \cdot \exp\left(-\frac{H^2}{2\sigma_{zi}^2}\right) \quad \dots(2-1)$ <p>(建屋影響を考慮する場合)</p> $(\chi/Q)_i = \frac{1}{\pi \cdot \Sigma_{yi} \cdot \Sigma_{zi} \cdot U_i} \cdot \exp\left(-\frac{H^2}{2\Sigma_{zi}^2}\right) \quad \dots(2-2)$ <p>χ/Q : 実効放出継続時間中の相対濃度 (s/m³) T : 実効放出継続時間 (h) $(\chi/Q)_i$: 時刻<i>i</i>における相対濃度(s/m³) δ_i : 時刻<i>i</i>において風向が当該方位<i>d</i>にあるとき $\delta_i=1$ 時刻<i>i</i>において風向が当該方位<i>d</i>にないとき $\delta_i=0$ σ_{yi} : 時刻<i>i</i>における濃度分布のy方向の拡がりのパラメータ (m) σ_{zi} : 時刻<i>i</i>における濃度分布のz方向の拡がりのパラメータ (m) U_i : 時刻<i>i</i>における風速 (m/s) H : 放出源の有効高さ (m) Σ_{yi} : $\left(\sigma_{yi}^2 + \frac{cA}{\pi}\right)^{1/2}$ Σ_{zi} : $\left(\sigma_{zi}^2 + \frac{cA}{\pi}\right)^{1/2}$ A : 建屋等の風向方向の投影面積 (m²) c : 形状係数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・記載箇所の相違 ・記載箇所の相違 ・記載表現の相違 ・スクリーニング評価の対象の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）			東海第二発電所 有毒ガス			差異理由
表2 大気拡散評価の条件			第3表 大気拡散評価の条件			<ul style="list-style-type: none"> ・記載表現の相違 ・記載表現の相違 ・評価に使用する気象データの相違 ・記載表現の相違 ・検定に使用する気象データの統計期間の相違 ・記載表現の相違 ・スクリーニング評価の対象の相違 ・記載表現の相違 ・記載表現の相違 ・スクリーニング評価の対象の相違
項目	評価条件	選定理由	項目	評価条件	選定理由	
大気拡散評価モデル	「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針」の大気拡散の評価式に従い算出	有毒ガスの放出形態を考慮して設定（別紙8-1参照）	大気拡散評価モデル	「気象指針」の大気拡散の評価式に従い算出	有毒ガスの放出形態を考慮して設定（別紙10-1参照）	
気象データ	女川原子力発電所における1年間の気象データ（2012年1月～2012年12月）	当該気象を除く至近10年（2010年1月～2020年12月）の気象データと比較して特に異常な年ではなく、また、評価対象とする地理的範囲を代表する気象であることから設定（別紙7参照）	気象データ	東海第二発電所における1年間の気象データ（2005年4月～2006年3月）	至近10年（2010年4月～2020年3月）の気象データと比較して特に異常な年ではなく、また、評価対象とする地理的範囲を代表する気象であることから設定（別紙9参照）	
実効放出継続時間	1時間	「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針」の、想定事故時の大気拡散の評価式（短時間放出）の適用のため	実効放出継続時間	1時間	「気象指針」の、想定事故時の大気拡散の評価式（短時間放出）の適用のため	
放出源及び放出源高さ	固定源ごとに評価点との位置関係を考慮し設定	ガイドに示されたとおり設定	放出源及び放出源高さ	固定源ごとに評価点との位置関係を考慮し設定	ガイドに示されたとおり設定	
相対濃度の累積出現頻度	毎時刻の相対濃度を年間について小さい方から累積して97%※	ガイドに示されたとおり設定	累積出現頻度	小さい方から累積して97%	ガイドに示されたとおり設定	
建屋影響	考慮しない	発生源から評価点の離隔が十分あるため（別紙8-2参照）	建屋巻き込み	・敷地内固定源：考慮する ・敷地外固定源：考慮しない	敷地外固定源は、発生源から評価点の離隔が十分あるため考慮しない（別紙10-2参照）	
相対濃度の評価点	中央制御室外気取入口及び緊急時対策所外気取入口	ガイドに示されたとおり設定	濃度の評価点	・中央制御室外気取入口 ・緊急時対策所外気取入口 ・重要操作地点	ガイドに示されたとおり設定	
※：累積出現頻度97%値が得られない場合においては、累積出現頻度98%に当たる値を用いる						

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)		東海第二発電所 有毒ガス							差異理由
		第4表 蒸発率等及び大気拡散評価の評価結果 (1/7) (中央制御室外気取入口)							・スクリーニング評価の対象の相違
		蒸発率等評価条件					放出継続時間(h)	蒸発率等 (kg/s)	
		貯蔵量	薬品濃度 (wt%)		堰面積 (m ²)				
			届出情報	評価条件	届出情報	評価条件			
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	1.0 (m ³)	26	26	8	8	6.2 × 10 ⁰	1.2 × 10 ⁻²	
	アンモニア①	10000 (kg)	25	25	—	—	1.7 × 10 ¹	4.3 × 10 ⁻²	
	塩酸①-1	5000 (kg)	35	35	—	—	7.9 × 10 ¹	6.3 × 10 ⁻³	
	塩酸①-2	9450 (kg)	35	35	—	—	8.6 × 10 ¹	1.1 × 10 ⁻²	
	アンモニア②	2000 (kg)	10	10	—	—	3.6 × 10 ¹	1.6 × 10 ⁻³	
	アンモニア③	150000 (kg) ×2基	99	99	292	292	1.0 × 10 ⁰	8.3 × 10 ¹ ※5	
	塩酸③-1	22420 (kg) ×2基	35	35	129	129	2.2 × 10 ¹	2.0 × 10 ⁻¹	
	塩酸③-2	448440 (kg)	35	35	148	148	1.9 × 10 ¹	2.3 × 10 ⁻¹	
	塩酸③-3	7080 (kg)	35	35	25	25	1.6 × 10 ¹	4.3 × 10 ⁻²	
	アンモニア④	18 (kg)	—	100 ^{*1}	—	—	3.3 × 10 ⁻¹	3.9 × 10 ⁻³	
	塩酸④-1	900 (kg)	—	100 ^{*1}	—	—	1.3 × 10 ¹	7.0 × 10 ⁻³	
	塩酸④-2	3000 (L)	—	100 ^{*1}	—	—	1.8 × 10 ¹	2.0 × 10 ⁻²	
	硝酸④	7000 (kg)	—	100 ^{*1}	—	—	1.0 × 10 ²	1.9 × 10 ⁻²	
	メタノール④	3000 (L)	—	100 ^{*1}	—	—	2.8 × 10 ²	3.0 × 10 ⁻³	
	アンモニア⑤	11.3 (t)	—	100 ^{*1}	—	—	1.0 × 10 ⁰	3.1 × 10 ⁰ ※5	
	アンモニア⑥	1800 (kg)	—	100 ^{*1}	—	— ^{*4}	1.0 × 10 ⁰	5.0 × 10 ⁻¹ ※5	
	敷地外	アンモニア⑦	800 (kg)	—	100 ^{*1}	—	— ^{*4}	1.0 × 10 ⁰	
塩酸⑧-1		2400 (kg)	35	35	8.8	9 ^{*3}	4.8 × 10 ¹	5.0 × 10 ⁻³	
塩酸⑧-2		1180 (kg)	35	35	10	10	2.2 × 10 ¹	5.5 × 10 ⁻³	
塩酸⑧-3		2000 (kg)	35 以上	37 ^{*2}	—	—	1.0 × 10 ⁰	2.0 × 10 ⁻¹	
塩酸⑧-4		354 (kg)	35 以上	37 ^{*2}	0.64	1	5.7 × 10 ¹	6.2 × 10 ⁻⁴	
塩酸⑨-1		1180 (kg)	35	35	—	—	6.7 × 10 ¹	1.8 × 10 ⁻³	
塩酸⑨-2		3540 (kg)	35	35	—	—	9.1 × 10 ¹	3.9 × 10 ⁻³	
硝酸⑩-1		3.0 (m ³)	67.5	68 ^{*3}	51	51	7.7 × 10 ¹	1.2 × 10 ⁻²	
硝酸⑩-2		1.5 (m ³)	67.5	68 ^{*3}	92	92	2.2 × 10 ¹	2.1 × 10 ⁻²	
メタノール⑪		12500 (L)	—	100 ^{*1}	—	—	2.2 × 10 ²	1.6 × 10 ⁻²	
メタノール⑫		1405 (L)	—	100 ^{*1}	—	—	2.4 × 10 ²	1.6 × 10 ⁻³	
ガソリン⑬	2800 (L)	—	—	—	—	1.1 × 10 ¹	5.7 × 10 ⁻²		
ガソリン⑭	576 (L)	—	—	—	—	7.3 × 10 ⁰	1.8 × 10 ⁻²		
ガソリン⑮	910000 (L) 2625000 (L)	—	—	1688.17	1689 ^{*3}	3.4 × 10 ¹	2.3 × 10 ¹		
ガソリン⑯	574 (L)	—	—	—	—	8.4 × 10 ⁰	1.5 × 10 ⁻²		
塩化水素⑰	6.4 (m ³)	—	100 ^{*1}	—	—	1.0 × 10 ⁰	1.8 × 10 ⁻³ ※5		
硫化水素⑱	6.4 (m ³)	—	100 ^{*1}	—	—	1.0 × 10 ⁰	1.8 × 10 ⁻³ ※5		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)		東海第二発電所 有毒ガス										差異理由
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	145	NW, WNW, W, WSW	0.7	SE	F	1	考慮する ※7	1000	2.5×10^{-3}	・スクリーニング評価の対象の相違	
	アンモニア①	7300	NE	1.6	SW	A	1	考慮せず	設定せず	1.9×10^{-7}		
塩酸①-1	7300	NE	1.6	SW	A	1	考慮せず	設定せず	1.9×10^{-7}			
塩酸①-2	7300	NE	1.6	SW	A	1	考慮せず	設定せず	1.9×10^{-7}			
アンモニア②	7500	NE	1.6	SW	A	1	考慮せず	設定せず	1.9×10^{-7}			
アンモニア③	3300	NNW	1.4	SSE	B	1	考慮せず	設定せず	6.1×10^{-7}			
塩酸③-1	3300	NNW	1.4	SSE	B	1	考慮せず	設定せず	6.1×10^{-7}			
塩酸③-2	3300	NNW	1.4	SSE	B	1	考慮せず	設定せず	6.1×10^{-7}			
塩酸③-3	3300	NNW	1.4	SSE	B	1	考慮せず	設定せず	6.1×10^{-7}			
アンモニア④	5300	E	2.7	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.2×10^{-5}			
塩酸④-1	5300	E	3.4	W	E	1	考慮せず	設定せず	6.5×10^{-6}			
塩酸④-2	5300	E	3.4	W	E	1	考慮せず	設定せず	6.5×10^{-6}			
硝酸④	5300	E	2.4	W	E	1	考慮せず	設定せず	9.2×10^{-6}			
メタノール④	5300	E	1.4	W	F	1	考慮せず	設定せず	4.2×10^{-5}			
アンモニア⑤	5300	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.9×10^{-5}			
アンモニア⑥	9300	SSW	4.0	NNE	D	1	考慮せず	設定せず	1.1×10^{-6}			
アンモニア⑦	7800	SSW	4.0	NNE	D	1	考慮せず	設定せず	1.4×10^{-6}			
敷地外	塩酸⑧-1	720	ENE	1.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	2.5×10^{-5}		
塩酸⑧-2	720	ENE	1.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	2.5×10^{-5}			
塩酸⑧-3	720	ENE	1.8	WSW	A	1	考慮せず	設定せず	5.6×10^{-6}			
塩酸⑧-4	720	ENE	1.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	2.5×10^{-5}			
塩酸⑨-1	8900	ENE	1.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	2.0×10^{-7}			
塩酸⑨-2	8900	ENE	1.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	2.0×10^{-7}			
硝酸⑩-1	4500	ESE	2.0	WNW	F	1	考慮せず	設定せず	3.6×10^{-5}			
硝酸⑩-2	4500	ESE	2.0	WNW	F	1	考慮せず	設定せず	3.6×10^{-5}			
メタノール⑪	7000	NNE	2.4	SSW	B	1	考慮せず	設定せず	1.7×10^{-7}			
メタノール⑫	8900	ENE	1.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	2.0×10^{-7}			
ガソリン⑬	1100	E	2.6	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.3×10^{-4}			
ガソリン⑭	5100	NNE	2.5	SSW	B	1	考慮せず	設定せず	2.1×10^{-7}			
ガソリン⑮	4200	SSW	3.6	NNE	D	1	考慮せず	設定せず	4.1×10^{-6}			
ガソリン⑯	7500	ENE	2.0	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	1.9×10^{-7}			
塩化水素⑰	5500	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.8×10^{-5}			
硫化水素⑱	5500	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.8×10^{-5}			

- ※1 開示情報が得られなかった薬品濃度は、スクリーニング評価時に100%と設定した。
- ※2 塩酸の薬品濃度が35%以上となっているものについては、JIS（日本産業規格）により、薬品濃度が35.0%~37.0%と品質が定められているため、スクリーニング評価時に37%と設定した。
- ※3 スクリーニング評価時に、薬品濃度及び堰面積については小数第一位を切り上げた値とした。
- ※4 堰面積の開示情報が得られなかったものについては、堰がないものとし、1時間で全量放出するとしてスクリーニング評価を実施した。
- ※5 ガス状の固定源であり放出率（kg/s）を設定
- ※6 発生源から評価点を見た方位
- ※7 巻き込みを生じる代表建屋を「固体廃棄物作業建屋」とする。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)		東海第二発電所 有毒ガス								差異理由
		第4表 蒸発率等及び大気拡散評価の評価結果 (2/7)								・スクリーニング評価の対象の相違
		(緊急時対策所)								
		蒸発率等評価条件								
		固定源	貯蔵量	薬品濃度 (wt%)		堰面積 (m ²)		放出継続時間 (h)	蒸発率等 (kg/s)	
				届出情報	評価条件	届出情報	評価条件			
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	1.0 (m ³)	26	26	8	8	1.0 × 10 ⁰	7.0 × 10 ⁻²		
	アンモニア①	10000 (kg)	25	25	—	—	1.7 × 10 ¹	4.3 × 10 ⁻²		
	塩酸①-1	5000 (kg)	35	35	—	—	7.9 × 10 ¹	6.3 × 10 ⁻³		
	塩酸①-2	9450 (kg)	35	35	—	—	8.6 × 10 ¹	1.1 × 10 ⁻²		
	アンモニア②	2000 (kg)	10	10	—	—	3.6 × 10 ¹	1.6 × 10 ⁻³		
	アンモニア③	150000 (kg) × 2 基	99	99	292	292	1.0 × 10 ⁰	8.3 × 10 ¹ ※5		
	塩酸③-1	22420 (kg) × 2 基	35	35	129	129	2.2 × 10 ¹	2.0 × 10 ⁻¹		
	塩酸③-2	448440 (kg)	35	35	148	148	1.9 × 10 ¹	2.3 × 10 ⁻¹		
	塩酸③-3	7080 (kg)	35	35	25	25	1.6 × 10 ¹	4.3 × 10 ⁻²		
	アンモニア④	18 (kg)	—	100 ^{※1}	—	—	3.3 × 10 ⁻¹	3.9 × 10 ⁻³		
	塩酸④-1	900 (kg)	—	100 ^{※1}	—	—	1.3 × 10 ¹	7.0 × 10 ⁻³		
	塩酸④-2	3000 (L)	—	100 ^{※1}	—	—	1.8 × 10 ¹	2.0 × 10 ⁻²		
	硝酸④	7000 (kg)	—	100 ^{※1}	—	—	1.0 × 10 ²	1.9 × 10 ⁻²		
	メタノール④	3000 (L)	—	100 ^{※1}	—	—	2.8 × 10 ²	3.0 × 10 ⁻³		
	アンモニア⑤	11.3 (t)	—	100 ^{※1}	—	—	1.0 × 10 ⁰	3.1 × 10 ⁰ ※5		
	アンモニア⑥	1800 (kg)	—	100 ^{※1}	—	— ^{※4}	1.0 × 10 ⁰	5.0 × 10 ⁻¹ ※5		
敷地外	アンモニア⑦	800 (kg)	—	100 ^{※1}	—	— ^{※4}	1.0 × 10 ⁰	2.2 × 10 ⁻¹ ※5		
	塩酸⑧-1	2400 (kg)	35	35	8.8	9 ^{※3}	4.2 × 10 ¹	5.7 × 10 ⁻³		
	塩酸⑧-2	1180 (kg)	35	35	10	10	1.9 × 10 ¹	6.3 × 10 ⁻³		
	塩酸⑧-3	2000 (kg)	35 以上	37 ^{※2}	—	—	1.0 × 10 ⁰	2.0 × 10 ⁻¹		
	塩酸⑧-4	354 (kg)	35 以上	37 ^{※2}	0.64	1	4.9 × 10 ¹	7.2 × 10 ⁻⁴		
	塩酸⑨-1	1180 (kg)	35	35	—	—	6.7 × 10 ¹	1.8 × 10 ⁻³		
	塩酸⑨-2	3540 (kg)	35	35	—	—	9.1 × 10 ¹	3.9 × 10 ⁻³		
	硝酸⑩-1	3.0 (m ³)	67.5	68 ^{※3}	51	51	7.7 × 10 ¹	1.2 × 10 ⁻²		
	硝酸⑩-2	1.5 (m ³)	67.5	68 ^{※3}	92	92	2.2 × 10 ¹	2.1 × 10 ⁻²		
	メタノール⑪	12500 (L)	—	100 ^{※1}	—	—	2.2 × 10 ²	1.6 × 10 ⁻²		
	メタノール⑫	1405 (L)	—	100 ^{※1}	—	—	2.4 × 10 ²	1.6 × 10 ⁻³		
	ガソリン⑬	2800 (L)	—	—	—	—	1.1 × 10 ¹	5.7 × 10 ⁻²		
	ガソリン⑭	576 (L)	—	—	—	—	7.3 × 10 ⁰	1.8 × 10 ⁻²		
	ガソリン⑮	910000 (L) 2625000 (L)	—	—	1688.17	1689 ^{※3}	3.4 × 10 ¹	2.3 × 10 ¹		
	ガソリン⑯	574 (L)	—	—	—	—	8.4 × 10 ⁰	1.5 × 10 ⁻²		
	塩化水素⑰	6.4 (m ³)	—	100 ^{※1}	—	—	1.0 × 10 ⁰	1.8 × 10 ⁻³ ※5		
	硫化水素⑰	6.4 (m ³)	—	100 ^{※1}	—	—	1.0 × 10 ⁰	1.8 × 10 ⁻³ ※5		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)		東海第二発電所 有毒ガス										差異理由																	
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">固定源</th> <th colspan="8">相対濃度評価条件</th> <th rowspan="2">相対濃度 (s/m^3)</th> </tr> <tr> <th>距離 (m)</th> <th>着目 方位 ※6</th> <th>風速 (m/s)</th> <th>風向</th> <th>大気 安定 度</th> <th>実効 放出 継続 時間 (h)</th> <th>建屋影響</th> <th>投影面積 (m^2)</th> </tr> </thead> </table>									固定源	相対濃度評価条件								相対濃度 (s/m^3)	距離 (m)	着目 方位 ※6	風速 (m/s)	風向	大気 安定 度	実効 放出 継続 時間 (h)	建屋影響	投影面積 (m^2)	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>
固定源	相対濃度評価条件								相対濃度 (s/m^3)																				
	距離 (m)	着目 方位 ※6	風速 (m/s)	風向	大気 安定 度	実効 放出 継続 時間 (h)	建屋影響	投影面積 (m^2)																					
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	480	W, WSW	4.9	ENE	D	1	考慮する ※7	3000	5.6×10^{-5}																			
敷地外	アンモニア①	7300	NE	1.6	SW	A	1	考慮せず	設定せず	1.9×10^{-7}																			
	塩酸①-1	7300	NE	1.6	SW	A	1	考慮せず	設定せず	1.9×10^{-7}																			
	塩酸①-2	7300	NE	1.6	SW	A	1	考慮せず	設定せず	1.9×10^{-7}																			
	アンモニア②	7500	NE	1.6	SW	A	1	考慮せず	設定せず	1.9×10^{-7}																			
	アンモニア③	3400	NNW	1.4	SSE	B	1	考慮せず	設定せず	5.6×10^{-7}																			
	塩酸③-1	3400	NNW	1.4	SSE	B	1	考慮せず	設定せず	5.6×10^{-7}																			
	塩酸③-2	3400	NNW	1.4	SSE	B	1	考慮せず	設定せず	5.6×10^{-7}																			
	塩酸③-3	3400	NNW	1.4	SSE	B	1	考慮せず	設定せず	5.6×10^{-7}																			
	アンモニア④	5300	E	2.7	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.2×10^{-5}																			
	塩酸④-1	5300	E	3.4	W	E	1	考慮せず	設定せず	6.5×10^{-6}																			
	塩酸④-2	5300	E	3.4	W	E	1	考慮せず	設定せず	6.5×10^{-6}																			
	硝酸④	5300	E	2.4	W	E	1	考慮せず	設定せず	9.2×10^{-6}																			
	メタノール④	5300	E	1.4	W	F	1	考慮せず	設定せず	4.2×10^{-5}																			
	アンモニア⑤	5300	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.9×10^{-5}																			
	アンモニア⑥	9300	SSW	4.0	NNE	D	1	考慮せず	設定せず	1.1×10^{-6}																			
	アンモニア⑦	7800	SSW	4.0	NNE	D	1	考慮せず	設定せず	1.4×10^{-6}																			
	塩酸⑧-1	440	NE	1.6	SW	A	1	考慮せず	設定せず	3.1×10^{-5}																			
塩酸⑧-2	440	NE	1.6	SW	A	1	考慮せず	設定せず	3.1×10^{-5}																				
塩酸⑧-3	440	NE	1.8	SW	A	1	考慮せず	設定せず	2.7×10^{-5}																				
塩酸⑧-4	440	NE	1.6	SW	A	1	考慮せず	設定せず	3.1×10^{-5}																				
塩酸⑨-1	8900	ENE	1.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	2.0×10^{-7}																				
塩酸⑨-2	8900	ENE	1.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	2.0×10^{-7}																				
硝酸⑩-1	4500	ESE	2.0	WNW	F	1	考慮せず	設定せず	3.6×10^{-5}																				
硝酸⑩-2	4500	ESE	2.0	WNW	F	1	考慮せず	設定せず	3.6×10^{-5}																				
メタノール⑪	7000	NNE	2.4	SSW	B	1	考慮せず	設定せず	1.7×10^{-7}																				
メタノール⑫	8900	ENE	1.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	2.0×10^{-7}																				
ガソリン⑬	840	E	2.6	W	F	1	考慮せず	設定せず	3.4×10^{-4}																				
ガソリン⑭	5100	NNE	2.5	SSW	B	1	考慮せず	設定せず	2.1×10^{-7}																				
ガソリン⑮	4200	SSW	3.6	NNE	D	1	考慮せず	設定せず	4.1×10^{-6}																				
ガソリン⑯	7500	ENE	2.0	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	1.9×10^{-7}																				
塩化水素⑰	5500	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.8×10^{-5}																				
硫化水素⑰	5500	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.8×10^{-5}																				

※1 開示情報が得られなかった薬品濃度は、スクリーニング評価時に100%と設定した。
 ※2 塩酸の薬品濃度が35%以上となっているものについては、JIS（日本産業規格）により、薬品濃度が35.0%~37.0%と品質が定められているため、スクリーニング評価時に37%と設定した。
 ※3 スクリーニング評価時に、薬品濃度及び堰面積については小数第一位を切り上げた値とした。
 ※4 堰面積の開示情報が得られなかったものについては、堰がないものとし、1時間で全量放出するとしてスクリーニング評価を実施した。
 ※5 ガス状の固定源であり放出率（ kg/s ）を設定
 ※6 発生源から評価点を見た方位
 ※7 巻き込みを生じる代表建屋を「固体廃棄物作業建屋」とする。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																																																																														
	<p style="text-align: center;">第4表 蒸発率等及び大気拡散評価の評価結果 (3/7)</p> <p style="text-align: center;">(東側接続口①)</p> <table border="1" data-bbox="1374 426 2502 583"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th colspan="4">蒸発率等評価条件</th> <th rowspan="2">蒸発率等 (kg/s)</th> </tr> <tr> <th>貯蔵量 (m³)</th> <th>薬品濃度 (wt%)</th> <th>堰面積 (m²)</th> <th>放出継続時間 (h)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>熔融炉アンモニアタンク</td> <td>1.0</td> <td>26</td> <td>8</td> <td>7.2 × 10⁻¹</td> <td>1.0 × 10⁻¹</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1374 646 2502 926"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th colspan="7">相対濃度評価条件</th> <th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th> </tr> <tr> <th>距離 (m)</th> <th>着目方位 ※2</th> <th>風速 (m/s)</th> <th>風向</th> <th>大気安定度</th> <th>実効放出継続時間 (h)</th> <th>建屋影響</th> <th>投影面積 (m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>熔融炉アンモニアタンク</td> <td>95</td> <td>NNW NW WNW W WSW</td> <td>2.5</td> <td>SSE</td> <td>B</td> <td>1</td> <td>考慮する ※2</td> <td>1000</td> <td>3.9 × 10⁻⁴</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 発生源から評価点を見た方位 ※2 巻き込みを生じる代表建屋を「固体廃棄物作業建屋」とする。</p> <p style="text-align: center;">第4表 蒸発率等及び大気拡散評価の評価結果 (4/7)</p> <p style="text-align: center;">(東側接続口②)</p> <table border="1" data-bbox="1374 1188 2502 1346"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th colspan="4">蒸発率等評価条件</th> <th rowspan="2">蒸発率等 (kg/s)</th> </tr> <tr> <th>貯蔵量 (m³)</th> <th>薬品濃度 (wt%)</th> <th>堰面積 (m²)</th> <th>放出継続時間 (h)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>熔融炉アンモニアタンク</td> <td>1.0</td> <td>26</td> <td>8</td> <td>8.0 × 10⁻¹</td> <td>9.0 × 10⁻²</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1374 1409 2502 1713"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th colspan="7">相対濃度評価条件</th> <th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th> </tr> <tr> <th>距離 (m)</th> <th>着目方位 ※2</th> <th>風速 (m/s)</th> <th>風向</th> <th>大気安定度</th> <th>実効放出継続時間 (h)</th> <th>建屋影響</th> <th>投影面積 (m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>熔融炉アンモニアタンク</td> <td>85</td> <td>NNW NW WNW W WSW SW</td> <td>3.3</td> <td>SSE</td> <td>D</td> <td>1</td> <td>考慮する ※2</td> <td>1000</td> <td>5.1 × 10⁻⁴</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 発生源から評価点を見た方位 ※2 巻き込みを生じる代表建屋を「固体廃棄物作業建屋」とする。</p>	固定源		蒸発率等評価条件				蒸発率等 (kg/s)	貯蔵量 (m ³)	薬品濃度 (wt%)	堰面積 (m ²)	放出継続時間 (h)	敷地内	熔融炉アンモニアタンク	1.0	26	8	7.2 × 10 ⁻¹	1.0 × 10 ⁻¹	固定源		相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)	距離 (m)	着目方位 ※2	風速 (m/s)	風向	大気安定度	実効放出継続時間 (h)	建屋影響	投影面積 (m ²)	敷地内	熔融炉アンモニアタンク	95	NNW NW WNW W WSW	2.5	SSE	B	1	考慮する ※2	1000	3.9 × 10 ⁻⁴	固定源		蒸発率等評価条件				蒸発率等 (kg/s)	貯蔵量 (m ³)	薬品濃度 (wt%)	堰面積 (m ²)	放出継続時間 (h)	敷地内	熔融炉アンモニアタンク	1.0	26	8	8.0 × 10 ⁻¹	9.0 × 10 ⁻²	固定源		相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)	距離 (m)	着目方位 ※2	風速 (m/s)	風向	大気安定度	実効放出継続時間 (h)	建屋影響	投影面積 (m ²)	敷地内	熔融炉アンモニアタンク	85	NNW NW WNW W WSW SW	3.3	SSE	D	1	考慮する ※2	1000	5.1 × 10 ⁻⁴	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>
固定源				蒸発率等評価条件					蒸発率等 (kg/s)																																																																																							
		貯蔵量 (m ³)	薬品濃度 (wt%)	堰面積 (m ²)	放出継続時間 (h)																																																																																											
敷地内	熔融炉アンモニアタンク	1.0	26	8	7.2 × 10 ⁻¹	1.0 × 10 ⁻¹																																																																																										
固定源		相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)																																																																																							
		距離 (m)	着目方位 ※2	風速 (m/s)	風向	大気安定度	実効放出継続時間 (h)	建屋影響		投影面積 (m ²)																																																																																						
敷地内	熔融炉アンモニアタンク	95	NNW NW WNW W WSW	2.5	SSE	B	1	考慮する ※2	1000	3.9 × 10 ⁻⁴																																																																																						
固定源		蒸発率等評価条件				蒸発率等 (kg/s)																																																																																										
		貯蔵量 (m ³)	薬品濃度 (wt%)	堰面積 (m ²)	放出継続時間 (h)																																																																																											
敷地内	熔融炉アンモニアタンク	1.0	26	8	8.0 × 10 ⁻¹	9.0 × 10 ⁻²																																																																																										
固定源		相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)																																																																																							
		距離 (m)	着目方位 ※2	風速 (m/s)	風向	大気安定度	実効放出継続時間 (h)	建屋影響		投影面積 (m ²)																																																																																						
敷地内	熔融炉アンモニアタンク	85	NNW NW WNW W WSW SW	3.3	SSE	D	1	考慮する ※2	1000	5.1 × 10 ⁻⁴																																																																																						

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																																																																														
<p>第4表 蒸発率等及び大気拡散評価の評価結果 (5/7)</p> <p>(高所東側接続口)</p> <table border="1" data-bbox="1353 415 2504 575"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th colspan="4">蒸発率等評価条件</th> <th rowspan="2">蒸発率等 (kg/s)</th> </tr> <tr> <th>貯蔵量 (m³)</th> <th>薬品濃度 (wt%)</th> <th>堰面積 (m²)</th> <th>放出継続時間 (h)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>溶融炉 アンモニア タンク</td> <td>1.0</td> <td>26</td> <td>8</td> <td>1.7×10⁰</td> <td>4.3×10⁻²</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1353 638 2504 898"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th colspan="7">相対濃度評価条件</th> <th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th> </tr> <tr> <th>距離 (m)</th> <th>着目方位 ※2</th> <th>風速 (m/s)</th> <th>風向</th> <th>大気安定度</th> <th>実効放出継続時間 (h)</th> <th>建屋影響</th> <th>投影面積 (m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>溶融炉 アンモニア タンク</td> <td>230</td> <td>W WSW SW</td> <td>1.8</td> <td>ENE</td> <td>D</td> <td>1</td> <td>考慮する ※2</td> <td>1000</td> <td>5.2×10⁻⁴</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 発生源から評価点を見た方位 ※2 巻き込みを生じる代表建屋を「固体廃棄物作業建屋」とする。</p> <p>第4表 蒸発率等及び大気拡散評価の評価結果 (6/7)</p> <p>(西側接続口)</p> <table border="1" data-bbox="1353 1163 2504 1323"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th colspan="4">蒸発率等評価条件</th> <th rowspan="2">蒸発率等 (kg/s)</th> </tr> <tr> <th>貯蔵量 (m³)</th> <th>薬品濃度 (wt%)</th> <th>堰面積 (m²)</th> <th>放出継続時間 (h)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>溶融炉 アンモニア タンク</td> <td>1.0</td> <td>26</td> <td>8</td> <td>1.3×10⁰</td> <td>5.6×10⁻²</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1353 1386 2504 1696"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th colspan="7">相対濃度評価条件</th> <th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th> </tr> <tr> <th>距離 (m)</th> <th>着目方位 ※2</th> <th>風速 (m/s)</th> <th>風向</th> <th>大気安定度</th> <th>実効放出継続時間 (h)</th> <th>建屋影響</th> <th>投影面積 (m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>溶融炉 アンモニア タンク</td> <td>85</td> <td>NNW NW WNW W WSW SW</td> <td>3.3</td> <td>SSE</td> <td>D</td> <td>1</td> <td>考慮する ※2</td> <td>1000</td> <td>5.1×10⁻⁴</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 発生源から評価点を見た方位 ※2 巻き込みを生じる代表建屋を「固体廃棄物作業建屋」とする。</p>		固定源		蒸発率等評価条件				蒸発率等 (kg/s)	貯蔵量 (m ³)	薬品濃度 (wt%)	堰面積 (m ²)	放出継続時間 (h)	敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	1.0	26	8	1.7×10 ⁰	4.3×10 ⁻²	固定源		相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)	距離 (m)	着目方位 ※2	風速 (m/s)	風向	大気安定度	実効放出継続時間 (h)	建屋影響	投影面積 (m ²)	敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	230	W WSW SW	1.8	ENE	D	1	考慮する ※2	1000	5.2×10 ⁻⁴	固定源		蒸発率等評価条件				蒸発率等 (kg/s)	貯蔵量 (m ³)	薬品濃度 (wt%)	堰面積 (m ²)	放出継続時間 (h)	敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	1.0	26	8	1.3×10 ⁰	5.6×10 ⁻²	固定源		相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)	距離 (m)	着目方位 ※2	風速 (m/s)	風向	大気安定度	実効放出継続時間 (h)	建屋影響	投影面積 (m ²)	敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	85	NNW NW WNW W WSW SW	3.3	SSE	D	1	考慮する ※2	1000	5.1×10 ⁻⁴	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>
固定源				蒸発率等評価条件					蒸発率等 (kg/s)																																																																																							
		貯蔵量 (m ³)	薬品濃度 (wt%)	堰面積 (m ²)	放出継続時間 (h)																																																																																											
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	1.0	26	8	1.7×10 ⁰	4.3×10 ⁻²																																																																																										
固定源		相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)																																																																																							
		距離 (m)	着目方位 ※2	風速 (m/s)	風向	大気安定度	実効放出継続時間 (h)	建屋影響		投影面積 (m ²)																																																																																						
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	230	W WSW SW	1.8	ENE	D	1	考慮する ※2	1000	5.2×10 ⁻⁴																																																																																						
固定源		蒸発率等評価条件				蒸発率等 (kg/s)																																																																																										
		貯蔵量 (m ³)	薬品濃度 (wt%)	堰面積 (m ²)	放出継続時間 (h)																																																																																											
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	1.0	26	8	1.3×10 ⁰	5.6×10 ⁻²																																																																																										
固定源		相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)																																																																																							
		距離 (m)	着目方位 ※2	風速 (m/s)	風向	大気安定度	実効放出継続時間 (h)	建屋影響		投影面積 (m ²)																																																																																						
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	85	NNW NW WNW W WSW SW	3.3	SSE	D	1	考慮する ※2	1000	5.1×10 ⁻⁴																																																																																						

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

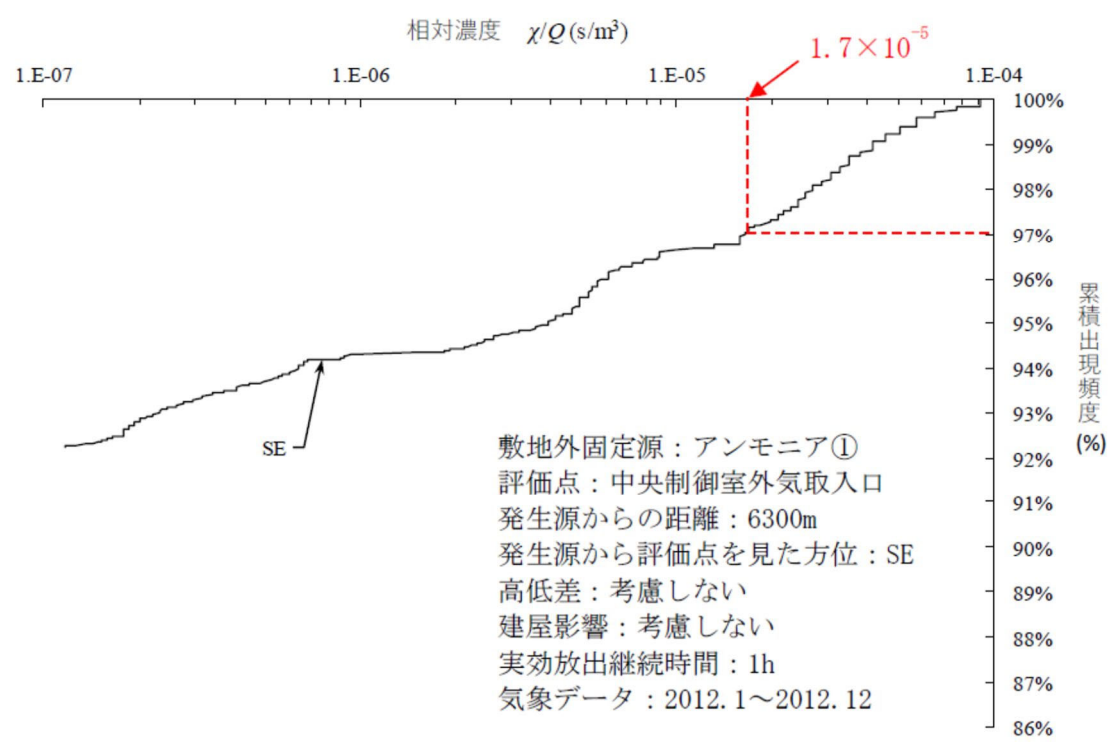
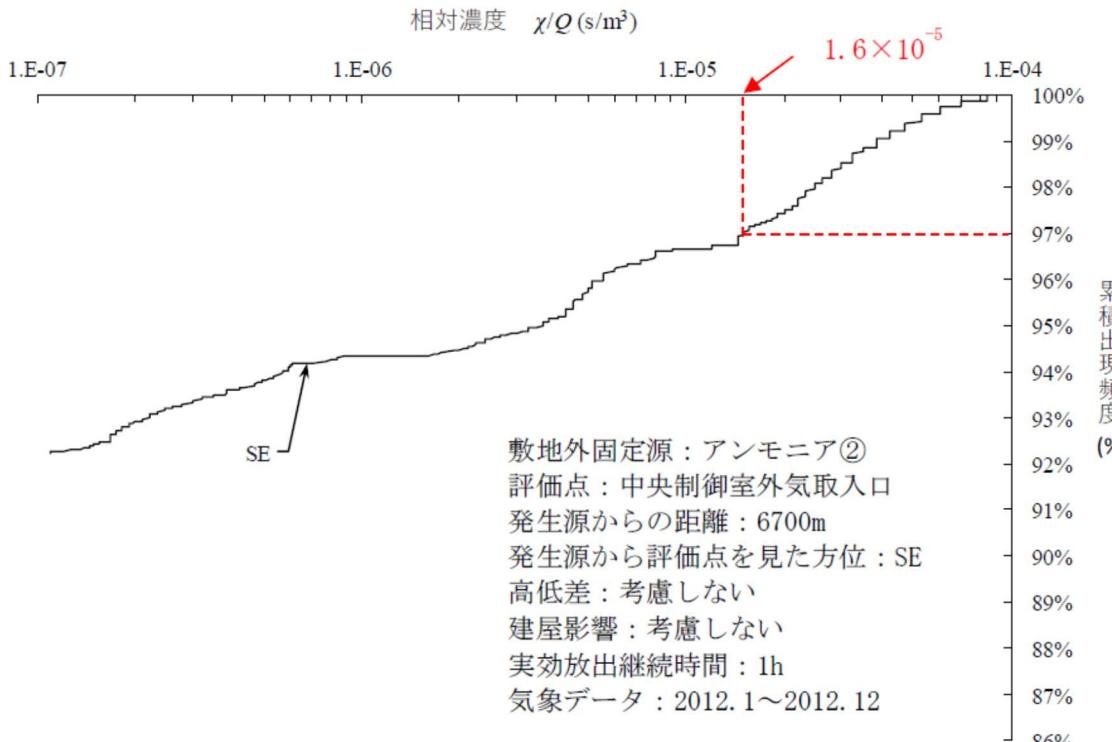
女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																															
	<p style="text-align: center;">第4表 蒸発率等及び大気拡散評価の評価結果 (7/7)</p> <p style="text-align: center;">(高所西側接続口)</p> <table border="1" data-bbox="1359 369 2507 531"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th colspan="4">蒸発率等評価条件</th> <th rowspan="2">蒸発率等 (kg/s)</th> </tr> <tr> <th>貯蔵量 (m³)</th> <th>薬品濃度 (wt%)</th> <th>堰面積 (m²)</th> <th>放出継続時間 (h)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>溶融炉 アンモニア タンク</td> <td>1.0</td> <td>26</td> <td>8</td> <td>3.0 × 10⁰</td> <td>2.4 × 10⁻²</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1359 592 2507 850"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th colspan="7">相対濃度評価条件</th> <th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th> </tr> <tr> <th>距離 (m)</th> <th>着目 方位 ※2</th> <th>風速 (m/s)</th> <th>風向</th> <th>大気 安定 度</th> <th>実効 放出 継続 時間 (h)</th> <th>建屋影響</th> <th>投影面積 (m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>溶融炉 アンモニア タンク</td> <td>280</td> <td>W WSW SW</td> <td>1.8</td> <td>ENE</td> <td>F</td> <td>1</td> <td>考慮する ※2</td> <td>1000</td> <td>7.8 × 10⁻⁴</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 発生源から評価点を見た方位 ※2 巻き込みを生じる代表建屋を「固体廃棄物作業建屋」とする。</p> <p>(3) 有毒ガスの外気濃度の評価について 固定源が液体状の発生源の場合は、蒸発率と相対濃度を用いて、外気濃度を(4-2-1)式にて算出する。また、固定源がガス状の発生源の場合は、放出率と相対濃度を用いて、外気濃度を(4-2-2)式にて算出する。</p> <p>有毒ガスの外気濃度 (ppm) の評価は(4-1)式を用いて算出する。それぞれの評価点における濃度は、年間毎時刻での外気濃度を小さい方から順に並べ、累積出現頻度 97%に当たる値を用いる。</p> <p>なお、外気濃度の算出に用いる気温については、評価に用いている風向及び風速と同時刻に観測されている気温 (気象データ) とする。</p> $C_{ppm} = \frac{C}{M} \times 22.4 \times \frac{T}{273.15} \times 10^6 \quad \dots(4-1)$ $C = E \times \frac{\chi}{Q} \quad \dots(4-2-1) \text{ (液体状有毒化学物質の評価)}$ $C = q_{GW} \times \frac{\chi}{Q} \quad \dots(4-2-2) \text{ (ガス状有毒化学物質の評価)}$ <p> C_{ppm} : 外気濃度 (ppm) C : 外気濃度 (kg/m³) = (g/L) M : 物質のモル質量 (g/mol) T : 気温 (K) E : 蒸発率 (kg/s) q_{GW} : 質量放出率 (kg/s) $\frac{\chi}{Q}$: 相対濃度 (s/m³) </p>	固定源		蒸発率等評価条件				蒸発率等 (kg/s)	貯蔵量 (m ³)	薬品濃度 (wt%)	堰面積 (m ²)	放出継続時間 (h)	敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	1.0	26	8	3.0 × 10 ⁰	2.4 × 10 ⁻²	固定源		相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)	距離 (m)	着目 方位 ※2	風速 (m/s)	風向	大気 安定 度	実効 放出 継続 時間 (h)	建屋影響	投影面積 (m ²)	敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	280	W WSW SW	1.8	ENE	F	1	考慮する ※2	1000	7.8 × 10 ⁻⁴	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>
固定源				蒸発率等評価条件					蒸発率等 (kg/s)																																								
		貯蔵量 (m ³)	薬品濃度 (wt%)	堰面積 (m ²)	放出継続時間 (h)																																												
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	1.0	26	8	3.0 × 10 ⁰	2.4 × 10 ⁻²																																											
固定源		相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)																																								
		距離 (m)	着目 方位 ※2	風速 (m/s)	風向	大気 安定 度	実効 放出 継続 時間 (h)	建屋影響		投影面積 (m ²)																																							
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	280	W WSW SW	1.8	ENE	F	1	考慮する ※2	1000	7.8 × 10 ⁻⁴																																							

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

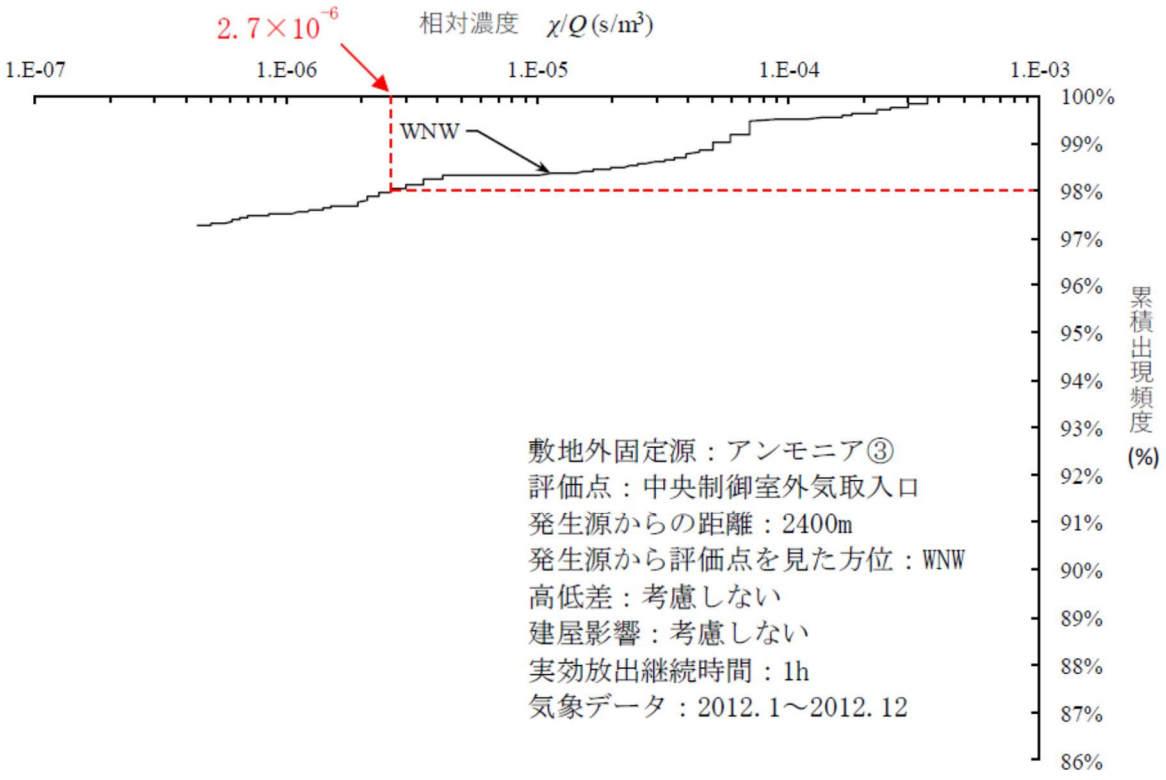
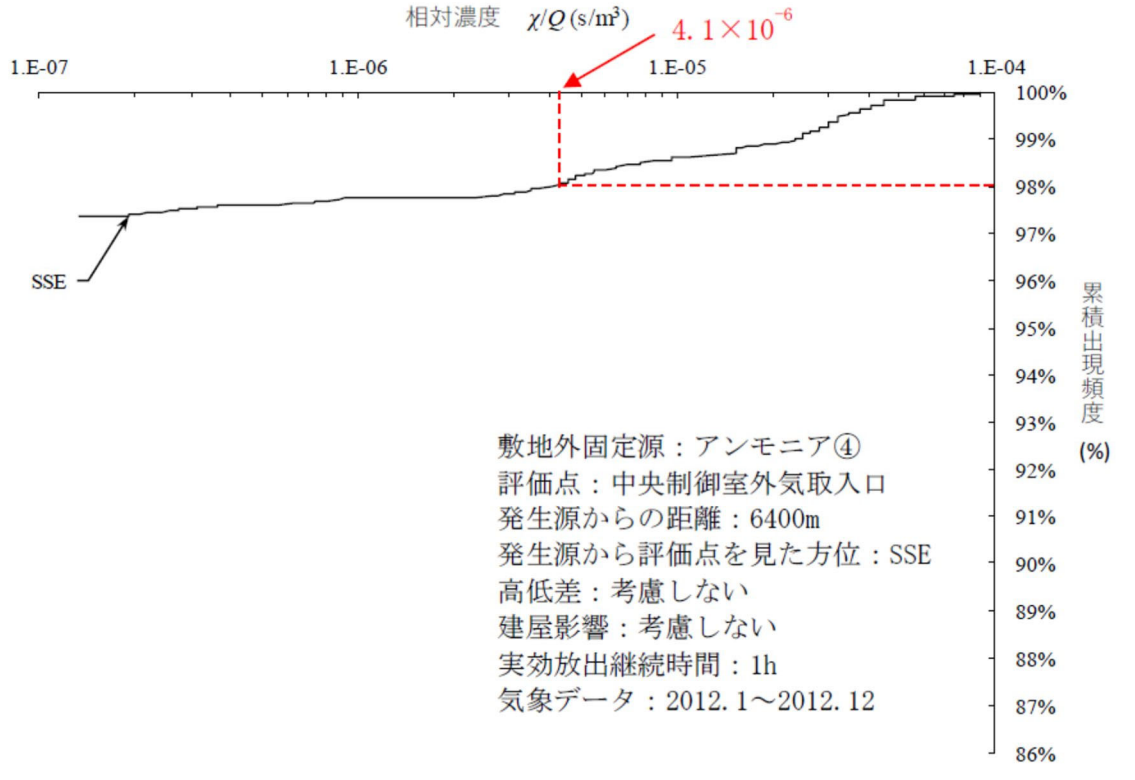
女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
 <p>図15 相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度の評価結果 (1/8)</p>	 <p>図15 相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度の評価結果 (2/8)</p>	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

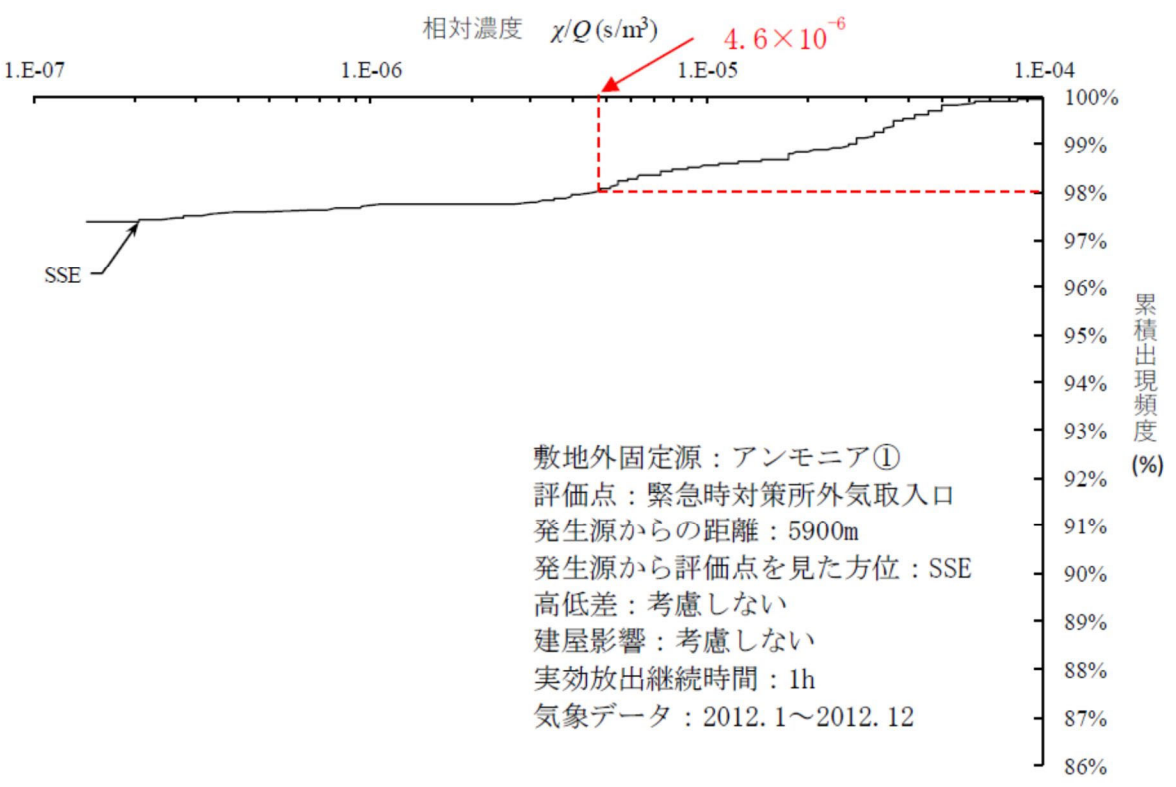
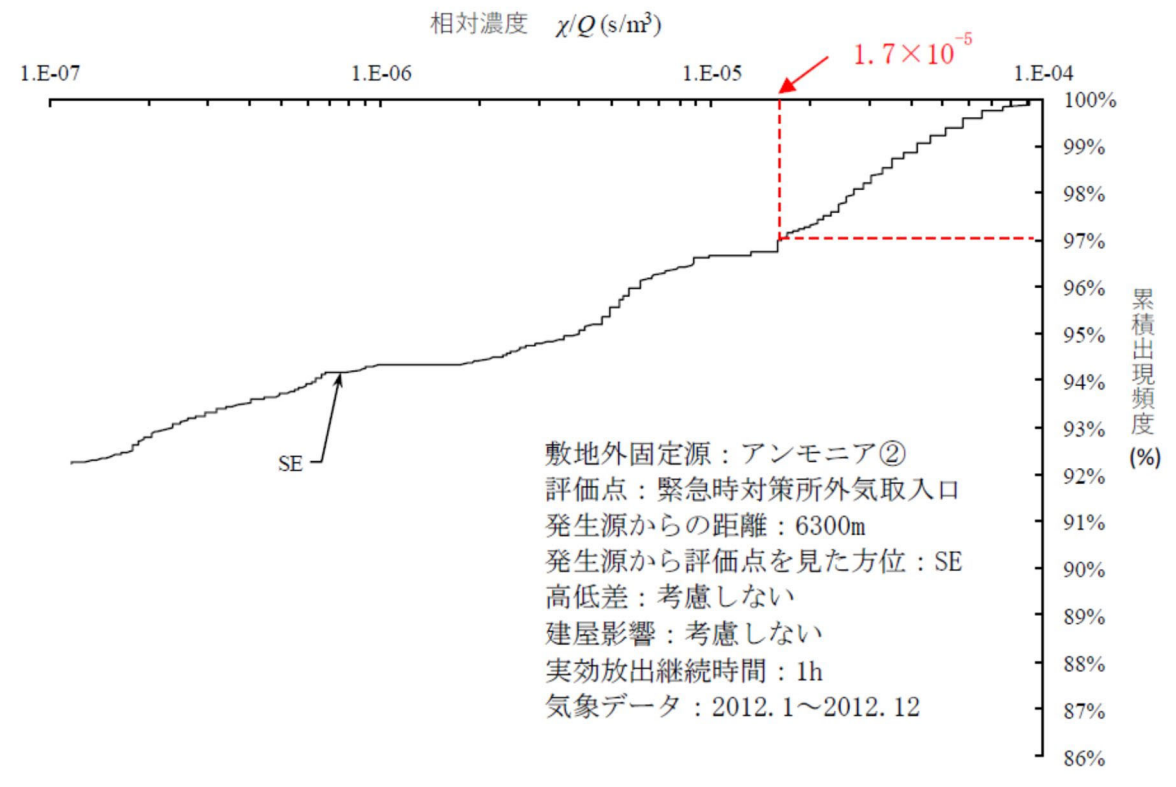
女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
 <p>図15 相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度の評価結果 (3/8)</p>	 <p>図15 相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度の評価結果 (4/8)</p>	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

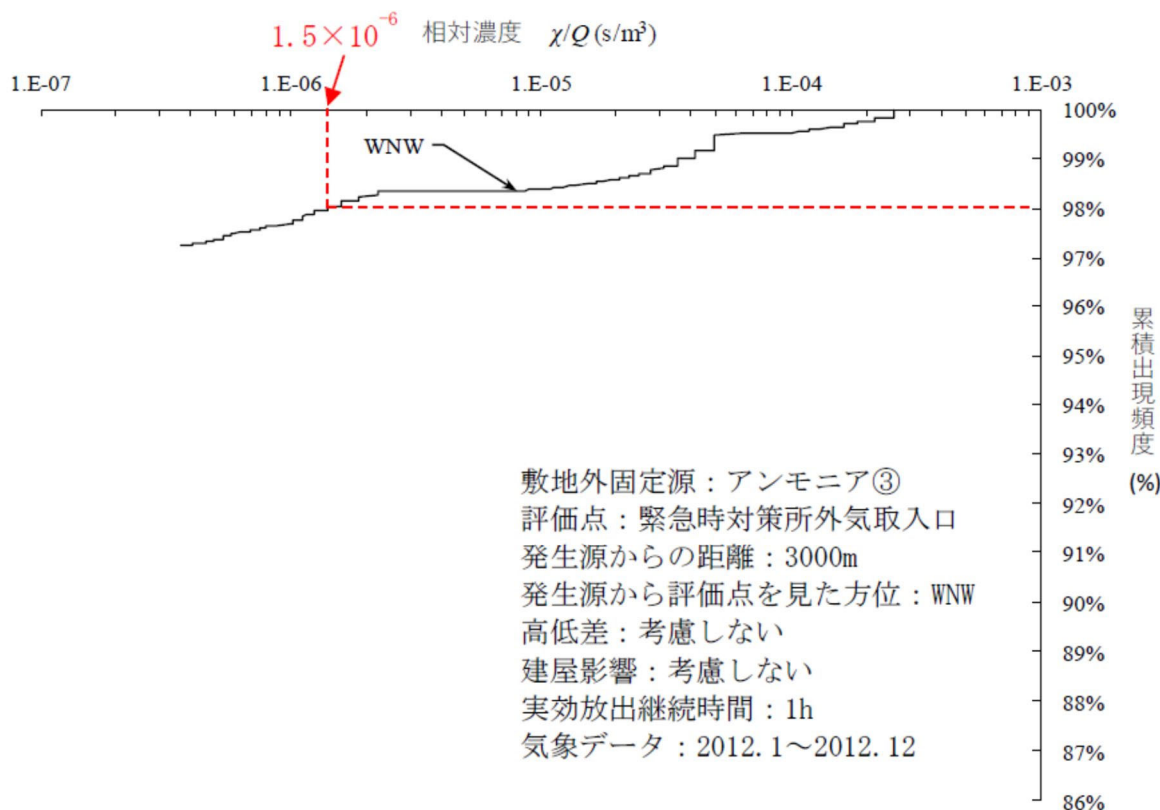
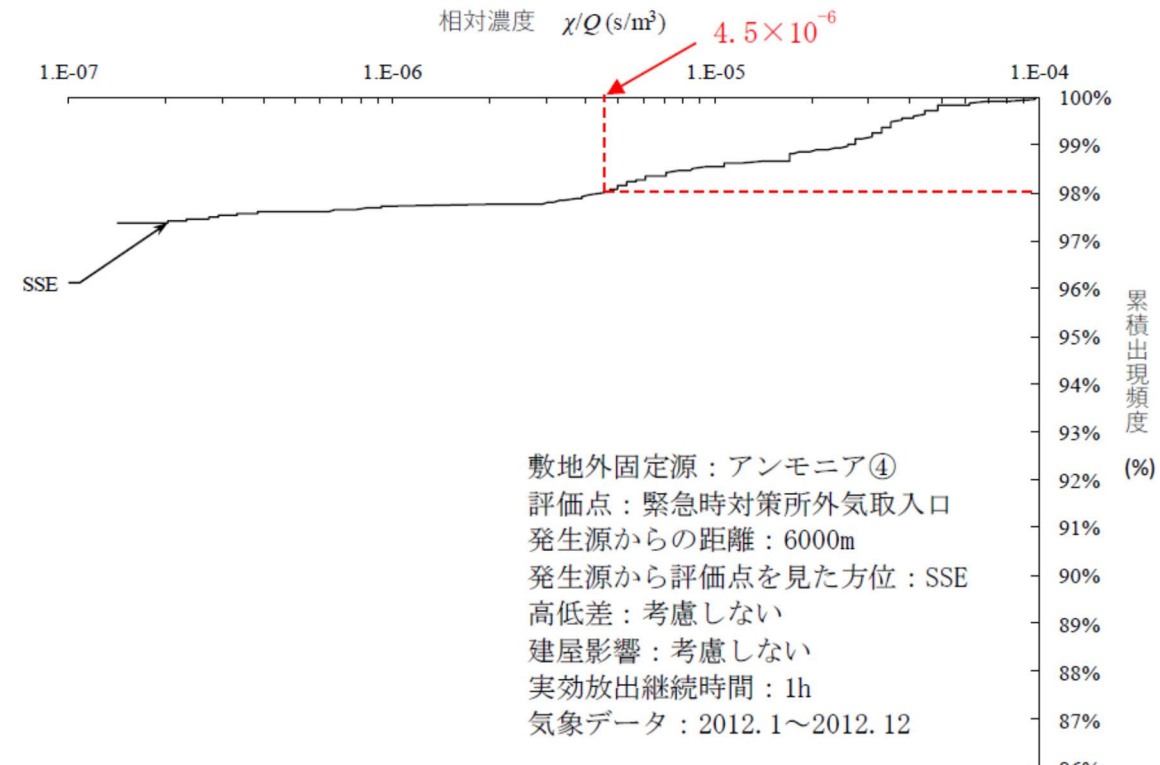
女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
 <p>図15 相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度の評価結果 (5/8)</p> <p>敷地外固定源：アンモニア① 評価点：緊急時対策所外気取入口 発生源からの距離：5900m 発生源から評価点を見た方位：SSE 高低差：考慮しない 建屋影響：考慮しない 実効放出継続時間：1h 気象データ：2012.1～2012.12</p>	 <p>図15 相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度の評価結果 (6/8)</p> <p>敷地外固定源：アンモニア② 評価点：緊急時対策所外気取入口 発生源からの距離：6300m 発生源から評価点を見た方位：SE 高低差：考慮しない 建屋影響：考慮しない 実効放出継続時間：1h 気象データ：2012.1～2012.12</p>	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
 <p>図15 相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度の評価結果 (7/8)</p>  <p>図15 相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度の評価結果 (8/8)</p>		<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
<p>3. スクリーニング評価に用いる相対濃度について</p> <p>スクリーニング評価に使用する相対濃度を表3及び表4に示す。</p> <p>スクリーニング評価においては、当該の相対濃度を用いて評価点における有毒ガス濃度を求める。その際、アンモニアのモル質量は17.0g/mol、気温は25℃、気圧は1気圧として評価する。</p>	<p>8. 有毒ガス濃度の評価結果について</p> <p>有毒ガス濃度の評価においては、当該の外気濃度を小さい方から順に並べ、累積出現頻度97%に当たる値を有毒ガス濃度の評価結果とした。有毒ガス濃度の評価結果を第5表に示す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 記載表現の相違 記載箇所の相違 																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
<p>表3 相対濃度の評価結果（中央制御室外気取入口）</p> <table border="1" data-bbox="97 527 1317 856"> <thead> <tr> <th rowspan="2">敷地外固定源</th> <th colspan="7">相対濃度評価条件</th> <th rowspan="2">相対濃度^{※2} (s/m³)</th> </tr> <tr> <th>距離^{※1} (m)</th> <th>発生源から評価点を見た方位</th> <th>風速 (m/s)</th> <th>風向</th> <th>大気安定度</th> <th>実効放出継続時間 (h)</th> <th>建屋影響</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンモニア①</td> <td>6300</td> <td>SE</td> <td>2.8</td> <td>NW</td> <td>F</td> <td>1</td> <td>考慮しない</td> <td>1.7×10⁻⁵</td> </tr> <tr> <td>アンモニア②</td> <td>6700</td> <td>SE</td> <td>2.8</td> <td>NW</td> <td>F</td> <td>1</td> <td>考慮しない</td> <td>1.6×10⁻⁵</td> </tr> <tr> <td>アンモニア③</td> <td>2400</td> <td>WNW</td> <td>0.8</td> <td>ESE</td> <td>B</td> <td>1</td> <td>考慮しない</td> <td>2.7×10^{-6※3}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア④</td> <td>6400</td> <td>SSE</td> <td>1.9</td> <td>NNW</td> <td>D</td> <td>1</td> <td>考慮しない</td> <td>4.1×10^{-6※3}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：100m未満切り捨て ※2：有効数字3桁目切り上げ ※3：累積出現頻度98%</p> <p>表4 相対濃度の評価結果（緊急時対策所外気取入口）</p> <table border="1" data-bbox="97 1079 1317 1409"> <thead> <tr> <th rowspan="2">敷地外固定源</th> <th colspan="7">相対濃度評価条件</th> <th rowspan="2">相対濃度^{※2} (s/m³)</th> </tr> <tr> <th>距離^{※1} (m)</th> <th>発生源から評価点を見た方位</th> <th>風速 (m/s)</th> <th>風向</th> <th>大気安定度</th> <th>実効放出継続時間 (h)</th> <th>建屋影響</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンモニア①</td> <td>5900</td> <td>SSE</td> <td>1.9</td> <td>NNW</td> <td>D</td> <td>1</td> <td>考慮しない</td> <td>4.6×10^{-6※3}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア②</td> <td>6300</td> <td>SE</td> <td>2.8</td> <td>NW</td> <td>F</td> <td>1</td> <td>考慮しない</td> <td>1.7×10⁻⁵</td> </tr> <tr> <td>アンモニア③</td> <td>3000</td> <td>WNW</td> <td>0.8</td> <td>ESE</td> <td>B</td> <td>1</td> <td>考慮しない</td> <td>1.5×10^{-6※3}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア④</td> <td>6000</td> <td>SSE</td> <td>1.9</td> <td>NNW</td> <td>D</td> <td>1</td> <td>考慮しない</td> <td>4.5×10^{-6※3}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：100m未満切り捨て ※2：有効数字3桁目切り上げ ※3：累積出現頻度98%</p>	敷地外固定源	相対濃度評価条件							相対濃度 ^{※2} (s/m ³)	距離 ^{※1} (m)	発生源から評価点を見た方位	風速 (m/s)	風向	大気安定度	実効放出継続時間 (h)	建屋影響	アンモニア①	6300	SE	2.8	NW	F	1	考慮しない	1.7×10 ⁻⁵	アンモニア②	6700	SE	2.8	NW	F	1	考慮しない	1.6×10 ⁻⁵	アンモニア③	2400	WNW	0.8	ESE	B	1	考慮しない	2.7×10 ^{-6※3}	アンモニア④	6400	SSE	1.9	NNW	D	1	考慮しない	4.1×10 ^{-6※3}	敷地外固定源	相対濃度評価条件							相対濃度 ^{※2} (s/m ³)	距離 ^{※1} (m)	発生源から評価点を見た方位	風速 (m/s)	風向	大気安定度	実効放出継続時間 (h)	建屋影響	アンモニア①	5900	SSE	1.9	NNW	D	1	考慮しない	4.6×10 ^{-6※3}	アンモニア②	6300	SE	2.8	NW	F	1	考慮しない	1.7×10 ⁻⁵	アンモニア③	3000	WNW	0.8	ESE	B	1	考慮しない	1.5×10 ^{-6※3}	アンモニア④	6000	SSE	1.9	NNW	D	1	考慮しない	4.5×10 ^{-6※3}	<p>第5表 固定源による有毒ガス影響評価結果（1/7） （中央制御室外気取入口）</p> <table border="1" data-bbox="1433 596 2436 1837"> <thead> <tr> <th rowspan="2">敷地内</th> <th rowspan="2">固定源</th> <th rowspan="2">着目方位^{※1}</th> <th rowspan="2">蒸発率等 (kg/s)</th> <th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th> <th colspan="2">評価結果</th> </tr> <tr> <th>評価点における有毒ガス濃度^{※2} (ppm)</th> <th>防護判断基準値との比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="17">敷地外</td> <td>溶融炉アンモニアタンク</td> <td>WNW</td> <td>1.2×10⁻²</td> <td>2.5×10⁻³</td> <td>4.2×10¹</td> <td>1.4×10⁻¹</td> </tr> <tr> <td>アンモニア①</td> <td>NE</td> <td>6.9×10⁻¹ ※3</td> <td>1.9×10⁻⁷</td> <td>1.9×10⁻¹</td> <td>6.5×10⁻⁴</td> </tr> <tr> <td>塩酸①-1</td> <td>NE</td> <td>4.9×10⁻¹ ※3</td> <td>1.9×10⁻⁷</td> <td>6.3×10⁻²</td> <td>1.3×10⁻³</td> </tr> <tr> <td>塩酸①-2</td> <td>NE</td> <td>9.2×10⁻¹ ※3</td> <td>1.9×10⁻⁷</td> <td>1.2×10⁻¹</td> <td>2.4×10⁻³</td> </tr> <tr> <td>アンモニア②</td> <td>NE</td> <td>5.6×10⁻² ※3</td> <td>1.9×10⁻⁷</td> <td>1.5×10⁻²</td> <td>5.1×10⁻⁵</td> </tr> <tr> <td>アンモニア③</td> <td>NNW</td> <td></td> <td>6.1×10⁻⁷</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>塩酸③-1</td> <td>NNW</td> <td></td> <td>6.1×10⁻⁷</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>塩酸③-2</td> <td>NNW</td> <td></td> <td>6.1×10⁻⁷</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>塩酸③-3</td> <td>NNW</td> <td></td> <td>6.1×10⁻⁷</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンモニア④</td> <td>E</td> <td></td> <td>2.2×10⁻⁵</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>塩酸④-1</td> <td>E</td> <td></td> <td>6.5×10⁻⁶</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>塩酸④-2</td> <td>E</td> <td></td> <td>6.5×10⁻⁶</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>硝酸④</td> <td>E</td> <td></td> <td>9.2×10⁻⁶</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>メタノール④</td> <td>E</td> <td></td> <td>4.2×10⁻⁵</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンモニア⑤</td> <td>E</td> <td>3.1×10⁰ ※3</td> <td>2.9×10⁻⁵</td> <td>1.3×10²</td> <td>4.4×10⁻¹</td> </tr> <tr> <td>アンモニア⑥</td> <td>SSW</td> <td>5.0×10⁻¹ ※3</td> <td>1.1×10⁻⁶</td> <td>8.0×10⁻¹</td> <td>2.7×10⁻³</td> </tr> <tr> <td>アンモニア⑦</td> <td>SSW</td> <td>2.2×10⁻¹ ※3</td> <td>1.4×10⁻⁶</td> <td>4.6×10⁻¹</td> <td>1.5×10⁻³</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-1</td> <td>ENE</td> <td></td> <td>2.5×10⁻⁵</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-2</td> <td>ENE</td> <td></td> <td>2.5×10⁻⁵</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-3</td> <td>ENE</td> <td></td> <td>5.6×10⁻⁶</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-4</td> <td>ENE</td> <td></td> <td>2.5×10⁻⁵</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>塩酸⑨-1</td> <td>ENE</td> <td>1.1×10⁻¹ ※3</td> <td>2.0×10⁻⁷</td> <td>1.6×10⁻²</td> <td>3.1×10⁻⁴</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑨-2</td> <td>ENE</td> <td>3.4×10⁻¹ ※3</td> <td>2.0×10⁻⁷</td> <td>4.7×10⁻²</td> <td>9.4×10⁻⁴</td> </tr> <tr> <td>硝酸⑩-1</td> <td>ESE</td> <td>1.2×10⁻²</td> <td>3.6×10⁻⁵</td> <td>1.7×10⁻¹</td> <td>6.7×10⁻³</td> </tr> <tr> <td>硝酸⑩-2</td> <td>ESE</td> <td>2.1×10⁻²</td> <td>3.6×10⁻⁵</td> <td>2.9×10⁻¹</td> <td>1.2×10⁻²</td> </tr> <tr> <td>メタノール⑪</td> <td>NNE</td> <td>3.5×10⁰ ※3</td> <td>1.7×10⁻⁷</td> <td>4.4×10⁻¹</td> <td>2.2×10⁻³</td> </tr> <tr> <td>メタノール⑫</td> <td>ENE</td> <td>3.9×10⁻¹ ※3</td> <td>2.0×10⁻⁷</td> <td>6.1×10⁻²</td> <td>3.0×10⁻⁴</td> </tr> <tr> <td>ガンリン⑬</td> <td>E</td> <td></td> <td>2.3×10⁻⁴</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ガンリン⑭</td> <td>NNE</td> <td>1.3×10⁻¹ ※3</td> <td>2.1×10⁻⁷</td> <td>8.6×10⁻³</td> <td>1.2×10⁻⁵</td> </tr> <tr> <td>ガンリン⑮</td> <td>SSW</td> <td>2.3×10¹</td> <td>4.1×10⁻⁶</td> <td>2.9×10¹</td> <td>4.2×10⁻²</td> </tr> <tr> <td>ガンリン⑯</td> <td>ENE</td> <td>1.3×10⁻¹ ※3</td> <td>1.9×10⁻⁷</td> <td>7.6×10⁻³</td> <td>1.1×10⁻⁵</td> </tr> <tr> <td>塩化水素⑰</td> <td>E</td> <td>1.8×10⁻³ ※3</td> <td>2.8×10⁻⁵</td> <td>5.4×10⁻²</td> <td>1.1×10⁻³</td> </tr> <tr> <td>硫化水素⑰</td> <td>E</td> <td>1.8×10⁻³ ※3</td> <td>2.8×10⁻⁵</td> <td>5.4×10⁻²</td> <td>1.1×10⁻²</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 発生源から評価点を見た方位 ※2 外気取入口における濃度。25℃（298.15K）、1気圧における各有毒化学物質の体積分率。各有毒化学物質のモル質量は別紙8参照 ※3 ガス状の固定源であり放出率（kg/s）を設定</p>	敷地内	固定源	着目方位 ^{※1}	蒸発率等 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果		評価点における有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断基準値との比	敷地外	溶融炉アンモニアタンク	WNW	1.2×10 ⁻²	2.5×10 ⁻³	4.2×10 ¹	1.4×10 ⁻¹	アンモニア①	NE	6.9×10 ⁻¹ ※3	1.9×10 ⁻⁷	1.9×10 ⁻¹	6.5×10 ⁻⁴	塩酸①-1	NE	4.9×10 ⁻¹ ※3	1.9×10 ⁻⁷	6.3×10 ⁻²	1.3×10 ⁻³	塩酸①-2	NE	9.2×10 ⁻¹ ※3	1.9×10 ⁻⁷	1.2×10 ⁻¹	2.4×10 ⁻³	アンモニア②	NE	5.6×10 ⁻² ※3	1.9×10 ⁻⁷	1.5×10 ⁻²	5.1×10 ⁻⁵	アンモニア③	NNW		6.1×10 ⁻⁷			塩酸③-1	NNW		6.1×10 ⁻⁷			塩酸③-2	NNW		6.1×10 ⁻⁷			塩酸③-3	NNW		6.1×10 ⁻⁷			アンモニア④	E		2.2×10 ⁻⁵			塩酸④-1	E		6.5×10 ⁻⁶			塩酸④-2	E		6.5×10 ⁻⁶			硝酸④	E		9.2×10 ⁻⁶			メタノール④	E		4.2×10 ⁻⁵			アンモニア⑤	E	3.1×10 ⁰ ※3	2.9×10 ⁻⁵	1.3×10 ²	4.4×10 ⁻¹	アンモニア⑥	SSW	5.0×10 ⁻¹ ※3	1.1×10 ⁻⁶	8.0×10 ⁻¹	2.7×10 ⁻³	アンモニア⑦	SSW	2.2×10 ⁻¹ ※3	1.4×10 ⁻⁶	4.6×10 ⁻¹	1.5×10 ⁻³	塩酸⑧-1	ENE		2.5×10 ⁻⁵			塩酸⑧-2	ENE		2.5×10 ⁻⁵			塩酸⑧-3	ENE		5.6×10 ⁻⁶			塩酸⑧-4	ENE		2.5×10 ⁻⁵			塩酸⑨-1	ENE	1.1×10 ⁻¹ ※3	2.0×10 ⁻⁷	1.6×10 ⁻²	3.1×10 ⁻⁴	塩酸⑨-2	ENE	3.4×10 ⁻¹ ※3	2.0×10 ⁻⁷	4.7×10 ⁻²	9.4×10 ⁻⁴	硝酸⑩-1	ESE	1.2×10 ⁻²	3.6×10 ⁻⁵	1.7×10 ⁻¹	6.7×10 ⁻³	硝酸⑩-2	ESE	2.1×10 ⁻²	3.6×10 ⁻⁵	2.9×10 ⁻¹	1.2×10 ⁻²	メタノール⑪	NNE	3.5×10 ⁰ ※3	1.7×10 ⁻⁷	4.4×10 ⁻¹	2.2×10 ⁻³	メタノール⑫	ENE	3.9×10 ⁻¹ ※3	2.0×10 ⁻⁷	6.1×10 ⁻²	3.0×10 ⁻⁴	ガンリン⑬	E		2.3×10 ⁻⁴			ガンリン⑭	NNE	1.3×10 ⁻¹ ※3	2.1×10 ⁻⁷	8.6×10 ⁻³	1.2×10 ⁻⁵	ガンリン⑮	SSW	2.3×10 ¹	4.1×10 ⁻⁶	2.9×10 ¹	4.2×10 ⁻²	ガンリン⑯	ENE	1.3×10 ⁻¹ ※3	1.9×10 ⁻⁷	7.6×10 ⁻³	1.1×10 ⁻⁵	塩化水素⑰	E	1.8×10 ⁻³ ※3	2.8×10 ⁻⁵	5.4×10 ⁻²	1.1×10 ⁻³	硫化水素⑰	E	1.8×10 ⁻³ ※3	2.8×10 ⁻⁵	5.4×10 ⁻²	1.1×10 ⁻²	<ul style="list-style-type: none"> スクリーニング評価の対象の相違
敷地外固定源		相対濃度評価条件								相対濃度 ^{※2} (s/m ³)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	距離 ^{※1} (m)	発生源から評価点を見た方位	風速 (m/s)	風向	大気安定度	実効放出継続時間 (h)	建屋影響																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
アンモニア①	6300	SE	2.8	NW	F	1	考慮しない	1.7×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
アンモニア②	6700	SE	2.8	NW	F	1	考慮しない	1.6×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
アンモニア③	2400	WNW	0.8	ESE	B	1	考慮しない	2.7×10 ^{-6※3}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
アンモニア④	6400	SSE	1.9	NNW	D	1	考慮しない	4.1×10 ^{-6※3}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
敷地外固定源	相対濃度評価条件							相対濃度 ^{※2} (s/m ³)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	距離 ^{※1} (m)	発生源から評価点を見た方位	風速 (m/s)	風向	大気安定度	実効放出継続時間 (h)	建屋影響																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
アンモニア①	5900	SSE	1.9	NNW	D	1	考慮しない	4.6×10 ^{-6※3}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
アンモニア②	6300	SE	2.8	NW	F	1	考慮しない	1.7×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
アンモニア③	3000	WNW	0.8	ESE	B	1	考慮しない	1.5×10 ^{-6※3}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
アンモニア④	6000	SSE	1.9	NNW	D	1	考慮しない	4.5×10 ^{-6※3}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
敷地内	固定源	着目方位 ^{※1}	蒸発率等 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
					評価点における有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断基準値との比																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
敷地外	溶融炉アンモニアタンク	WNW	1.2×10 ⁻²	2.5×10 ⁻³	4.2×10 ¹	1.4×10 ⁻¹																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	アンモニア①	NE	6.9×10 ⁻¹ ※3	1.9×10 ⁻⁷	1.9×10 ⁻¹	6.5×10 ⁻⁴																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	塩酸①-1	NE	4.9×10 ⁻¹ ※3	1.9×10 ⁻⁷	6.3×10 ⁻²	1.3×10 ⁻³																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	塩酸①-2	NE	9.2×10 ⁻¹ ※3	1.9×10 ⁻⁷	1.2×10 ⁻¹	2.4×10 ⁻³																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	アンモニア②	NE	5.6×10 ⁻² ※3	1.9×10 ⁻⁷	1.5×10 ⁻²	5.1×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	アンモニア③	NNW		6.1×10 ⁻⁷																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	塩酸③-1	NNW		6.1×10 ⁻⁷																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	塩酸③-2	NNW		6.1×10 ⁻⁷																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	塩酸③-3	NNW		6.1×10 ⁻⁷																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	アンモニア④	E		2.2×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	塩酸④-1	E		6.5×10 ⁻⁶																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	塩酸④-2	E		6.5×10 ⁻⁶																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	硝酸④	E		9.2×10 ⁻⁶																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	メタノール④	E		4.2×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	アンモニア⑤	E	3.1×10 ⁰ ※3	2.9×10 ⁻⁵	1.3×10 ²	4.4×10 ⁻¹																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	アンモニア⑥	SSW	5.0×10 ⁻¹ ※3	1.1×10 ⁻⁶	8.0×10 ⁻¹	2.7×10 ⁻³																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	アンモニア⑦	SSW	2.2×10 ⁻¹ ※3	1.4×10 ⁻⁶	4.6×10 ⁻¹	1.5×10 ⁻³																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
塩酸⑧-1	ENE		2.5×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
塩酸⑧-2	ENE		2.5×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
塩酸⑧-3	ENE		5.6×10 ⁻⁶																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
塩酸⑧-4	ENE		2.5×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
塩酸⑨-1	ENE	1.1×10 ⁻¹ ※3	2.0×10 ⁻⁷	1.6×10 ⁻²	3.1×10 ⁻⁴																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
塩酸⑨-2	ENE	3.4×10 ⁻¹ ※3	2.0×10 ⁻⁷	4.7×10 ⁻²	9.4×10 ⁻⁴																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
硝酸⑩-1	ESE	1.2×10 ⁻²	3.6×10 ⁻⁵	1.7×10 ⁻¹	6.7×10 ⁻³																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
硝酸⑩-2	ESE	2.1×10 ⁻²	3.6×10 ⁻⁵	2.9×10 ⁻¹	1.2×10 ⁻²																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
メタノール⑪	NNE	3.5×10 ⁰ ※3	1.7×10 ⁻⁷	4.4×10 ⁻¹	2.2×10 ⁻³																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
メタノール⑫	ENE	3.9×10 ⁻¹ ※3	2.0×10 ⁻⁷	6.1×10 ⁻²	3.0×10 ⁻⁴																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
ガンリン⑬	E		2.3×10 ⁻⁴																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
ガンリン⑭	NNE	1.3×10 ⁻¹ ※3	2.1×10 ⁻⁷	8.6×10 ⁻³	1.2×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
ガンリン⑮	SSW	2.3×10 ¹	4.1×10 ⁻⁶	2.9×10 ¹	4.2×10 ⁻²																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
ガンリン⑯	ENE	1.3×10 ⁻¹ ※3	1.9×10 ⁻⁷	7.6×10 ⁻³	1.1×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
塩化水素⑰	E	1.8×10 ⁻³ ※3	2.8×10 ⁻⁵	5.4×10 ⁻²	1.1×10 ⁻³																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
硫化水素⑰	E	1.8×10 ⁻³ ※3	2.8×10 ⁻⁵	5.4×10 ⁻²	1.1×10 ⁻²																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）

東海第二発電所 有毒ガス

差異理由

固定源による有毒ガス濃度の重ね合わせ結果

（中央制御室外気取入口）

着目方位 ^{※1}	固定源 ^{※2}	当該方位における防護判断基準との比 ^{※2}		隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計 ^{※2,3}	評価 ^{※2}
N	—	—		—	—
NNE	メタノール⑩	2.2×10^{-3}	2.2×10^{-3}	6.6×10^{-3}	影響なし
	ガソリン⑭	1.2×10^{-5}			
NE	アンモニア①	6.5×10^{-4}	4.4×10^{-3}		
	塩酸①-1	1.3×10^{-3}			
	塩酸①-2	2.4×10^{-3}			
	アンモニア②	5.1×10^{-5}			
ENE	塩酸⑧-1				
	塩酸⑧-2				
	塩酸⑧-3				
	塩酸⑧-4				
	塩酸⑨-1	3.1×10^{-4}			
	塩酸⑨-2	9.4×10^{-4}			
	メタノール⑫	3.0×10^{-4}			
	ガソリン⑯	1.1×10^{-5}			
	塩化水素⑰	1.1×10^{-3}			
E	アンモニア④				
	塩酸④-1				
	塩酸④-2				
	硝酸④				
	メタノール④				
	アンモニア⑤	4.4×10^{-1}			
	ガソリン⑬				
ESE	硝酸⑩-1	6.7×10^{-3}	1.8×10^{-2}		
	硝酸⑩-2	1.2×10^{-2}			
SE	—	—		—	—
SSE	—	—		—	—
S	—	—		—	—
SSW	アンモニア⑥	2.7×10^{-3}	4.6×10^{-2}	4.6×10^{-2}	影響なし
	アンモニア⑦	1.5×10^{-3}			
	ガソリン⑮	4.2×10^{-2}			
SW	—	—		—	—
WSW	—	—		—	—
W	—	—		—	—
WNW	溶融炉アンモニアタンク	1.4×10^{-1}		1.4×10^{-1}	影響なし
NW	—	—		—	—
NNW	アンモニア③				
	塩酸③-1				
	塩酸③-2				
	塩酸③-3				

※1 発生源から評価点を見た方位

※2 固定源がない方位に“—”と記載

※3 有効数字2桁に切り上げた値を記載

・スクリーニング評価の対象の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）		東海第二発電所 有毒ガス						差異理由
		第5表 固定源による有毒ガス影響評価結果（2/7）						・スクリーニング評価の対象の相違
		（緊急時対策所外気取入口）						
敷地内	固定源	着目方位 ※1	蒸発率等 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果			
					評価点における 有毒ガス濃度※2 (ppm)	防護判断基準値 との比		
	溶融炉 アンモニア タンク	W	7.0×10 ⁻²	5.6×10 ⁻⁵	5.7×10 ⁰	1.9×10 ⁻²		
敷地外	アンモニア①	NE	6.9×10 ⁻¹ ※3	1.9×10 ⁻⁷	1.9×10 ⁻¹	6.5×10 ⁻⁴		
	塩酸①-1	NE	4.9×10 ⁻¹ ※3	1.9×10 ⁻⁷	6.3×10 ⁻²	1.3×10 ⁻³		
	塩酸①-2	NE	9.2×10 ⁻¹ ※3	1.9×10 ⁻⁷	1.2×10 ⁻¹	2.4×10 ⁻³		
	アンモニア②	NE	5.6×10 ⁻² ※3	1.9×10 ⁻⁷	1.5×10 ⁻²	5.1×10 ⁻⁵		
	アンモニア③	NNW		5.6×10 ⁻⁷				
	塩酸③-1	NNW		5.6×10 ⁻⁷				
	塩酸③-2	NNW		5.6×10 ⁻⁷				
	塩酸③-3	NNW		5.6×10 ⁻⁷				
	アンモニア④	E		2.2×10 ⁻⁵				
	塩酸④-1	E		6.5×10 ⁻⁶				
	塩酸④-2	E		6.5×10 ⁻⁶				
	硝酸④	E		9.2×10 ⁻⁶				
	メタノール④	E		4.2×10 ⁻⁵				
	アンモニア⑤	E	3.1×10 ⁰ ※3	2.9×10 ⁻⁵	1.3×10 ²	4.4×10 ⁻¹		
	アンモニア⑥	SSW	5.0×10 ⁻¹ ※3	1.1×10 ⁻⁶	8.0×10 ⁻¹	2.7×10 ⁻³		
	アンモニア⑦	SSW	2.2×10 ⁻¹ ※3	1.4×10 ⁻⁶	4.6×10 ⁻¹	1.5×10 ⁻³		
	塩酸⑧-1	NE		3.1×10 ⁻⁵				
	塩酸⑧-2	NE		3.1×10 ⁻⁵				
	塩酸⑧-3	NE		2.7×10 ⁻⁵				
	塩酸⑧-4	NE		3.1×10 ⁻⁵				
塩酸⑨-1	ENE	1.1×10 ⁻¹ ※3	2.0×10 ⁻⁷	1.6×10 ⁻²	3.1×10 ⁻⁴			
塩酸⑨-2	ENE	3.4×10 ⁻¹ ※3	2.0×10 ⁻⁷	4.7×10 ⁻²	9.4×10 ⁻⁴			
硝酸⑩-1	ESE	1.2×10 ⁻²	3.6×10 ⁻⁵	1.7×10 ⁻¹	6.7×10 ⁻³			
硝酸⑩-2	ESE	2.1×10 ⁻²	3.6×10 ⁻⁵	2.9×10 ⁻¹	1.2×10 ⁻²			
メタノール⑪	NNE	3.5×10 ⁰ ※3	1.7×10 ⁻⁷	4.4×10 ⁻¹	2.2×10 ⁻³			
メタノール⑫	ENE	3.9×10 ⁻¹ ※3	2.0×10 ⁻⁷	6.1×10 ⁻²	3.0×10 ⁻⁴			
ガソリン⑬	E		3.4×10 ⁻⁴					
ガソリン⑭	NNE	1.3×10 ⁻¹ ※3	2.1×10 ⁻⁷	8.6×10 ⁻³	1.2×10 ⁻⁵			
ガソリン⑮	SSW	2.3×10 ¹	4.1×10 ⁻⁶	2.9×10 ¹	4.2×10 ⁻²			
ガソリン⑯	ENE	1.3×10 ⁻¹ ※3	1.9×10 ⁻⁷	7.6×10 ⁻³	1.1×10 ⁻⁵			
塩化水素⑰	E	1.8×10 ⁻³ ※3	2.8×10 ⁻⁵	5.4×10 ⁻²	1.1×10 ⁻³			
硫化水素⑰	E	1.8×10 ⁻³ ※3	2.8×10 ⁻⁵	5.4×10 ⁻²	1.1×10 ⁻²			

※1 発生源から評価点を見た方位
 ※2 外気取入口における濃度。25℃（298.15K）、1気圧における各有毒化学物質の体積分率。各有毒化学物質のモル質量は別紙8参照
 ※3 ガス状の固定源であり放出率（kg/s）を設定

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																																																																																																																																								
	<p style="text-align: center;">固定源による有毒ガス濃度の重ね合わせ結果</p> <p style="text-align: center;">(緊急時対策所外気取入口)</p> <table border="1" data-bbox="1412 415 2451 1787"> <thead> <tr> <th>着目方位^{※1}</th> <th>固定源^{※2}</th> <th colspan="2">当該方位における防護判断基準との比^{※2}</th> <th>隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計^{※2,3}</th> <th>評価^{※2}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>N</td> <td>—</td> <td colspan="2">—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">NNE</td> <td>メタノール⑩</td> <td>2.2×10^{-3}</td> <td rowspan="2">2.2×10^{-3}</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑭</td> <td>1.2×10^{-5}</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">NE</td> <td>アンモニア①</td> <td>6.5×10^{-4}</td> <td rowspan="8"></td> <td rowspan="8"></td> <td rowspan="8"></td> </tr> <tr> <td>塩酸①-1</td> <td>1.3×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>塩酸①-2</td> <td>2.4×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア②</td> <td>5.1×10^{-5}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-4</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">ENE</td> <td>塩酸⑨-1</td> <td>3.1×10^{-4}</td> <td rowspan="4">1.6×10^{-3}</td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>塩酸⑨-2</td> <td>9.4×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>メタノール⑫</td> <td>3.0×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑮</td> <td>1.1×10^{-5}</td> </tr> <tr> <td rowspan="9">E</td> <td>アンモニア④</td> <td></td> <td rowspan="9"></td> <td rowspan="9"></td> <td rowspan="9"></td> </tr> <tr> <td>塩酸④-1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>塩酸④-2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>硝酸④</td> <td></td> </tr> <tr> <td>メタノール④</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンモニア⑤</td> <td>4.4×10^{-1}</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑬</td> <td></td> </tr> <tr> <td>塩化水素⑰</td> <td>1.1×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>硫化水素⑰</td> <td>1.1×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ESE</td> <td>硝酸⑩-1</td> <td>6.7×10^{-3}</td> <td rowspan="2">1.8×10^{-2}</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>硝酸⑩-2</td> <td>1.2×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td>SE</td> <td>—</td> <td colspan="2">—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>SSE</td> <td>—</td> <td colspan="2">—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>S</td> <td>—</td> <td colspan="2">—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">SSW</td> <td>アンモニア⑥</td> <td>2.7×10^{-3}</td> <td rowspan="3">4.6×10^{-2}</td> <td rowspan="3">4.6×10^{-2}</td> <td rowspan="3">影響なし</td> </tr> <tr> <td>アンモニア⑦</td> <td>1.5×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑮</td> <td>4.2×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td>SW</td> <td>—</td> <td colspan="2">—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>WSW</td> <td>—</td> <td colspan="2">—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>W</td> <td>溶融炉アンモニアタンク</td> <td colspan="2">1.9×10^{-2}</td> <td>1.9×10^{-2}</td> <td>影響なし</td> </tr> <tr> <td>WNW</td> <td>—</td> <td colspan="2">—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>NW</td> <td>—</td> <td colspan="2">—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">NNW</td> <td>アンモニア③</td> <td></td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>塩酸③-1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>塩酸③-2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>塩酸③-3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 発生源から評価点を見た方位 ※2 固定源がない方位に“—”と記載 ※3 有効数字2桁に切り上げた値を記載</p>	着目方位 ^{※1}	固定源 ^{※2}	当該方位における防護判断基準との比 ^{※2}		隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計 ^{※2,3}	評価 ^{※2}	N	—	—		—	—	NNE	メタノール⑩	2.2×10^{-3}	2.2×10^{-3}			ガソリン⑭	1.2×10^{-5}	NE	アンモニア①	6.5×10^{-4}				塩酸①-1	1.3×10^{-3}	塩酸①-2	2.4×10^{-3}	アンモニア②	5.1×10^{-5}	塩酸⑧-1		塩酸⑧-2		塩酸⑧-3		塩酸⑧-4		ENE	塩酸⑨-1	3.1×10^{-4}	1.6×10^{-3}			塩酸⑨-2	9.4×10^{-4}	メタノール⑫	3.0×10^{-4}	ガソリン⑮	1.1×10^{-5}	E	アンモニア④					塩酸④-1		塩酸④-2		硝酸④		メタノール④		アンモニア⑤	4.4×10^{-1}	ガソリン⑬		塩化水素⑰	1.1×10^{-3}	硫化水素⑰	1.1×10^{-2}	ESE	硝酸⑩-1	6.7×10^{-3}	1.8×10^{-2}			硝酸⑩-2	1.2×10^{-2}	SE	—	—		—	—	SSE	—	—		—	—	S	—	—		—	—	SSW	アンモニア⑥	2.7×10^{-3}	4.6×10^{-2}	4.6×10^{-2}	影響なし	アンモニア⑦	1.5×10^{-3}	ガソリン⑮	4.2×10^{-2}	SW	—	—		—	—	WSW	—	—		—	—	W	溶融炉アンモニアタンク	1.9×10^{-2}		1.9×10^{-2}	影響なし	WNW	—	—		—	—	NW	—	—		—	—	NNW	アンモニア③					塩酸③-1		塩酸③-2		塩酸③-3		<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>
着目方位 ^{※1}	固定源 ^{※2}	当該方位における防護判断基準との比 ^{※2}		隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計 ^{※2,3}	評価 ^{※2}																																																																																																																																																					
N	—	—		—	—																																																																																																																																																					
NNE	メタノール⑩	2.2×10^{-3}	2.2×10^{-3}																																																																																																																																																							
	ガソリン⑭	1.2×10^{-5}																																																																																																																																																								
NE	アンモニア①	6.5×10^{-4}																																																																																																																																																								
	塩酸①-1	1.3×10^{-3}																																																																																																																																																								
	塩酸①-2	2.4×10^{-3}																																																																																																																																																								
	アンモニア②	5.1×10^{-5}																																																																																																																																																								
	塩酸⑧-1																																																																																																																																																									
	塩酸⑧-2																																																																																																																																																									
	塩酸⑧-3																																																																																																																																																									
	塩酸⑧-4																																																																																																																																																									
ENE	塩酸⑨-1	3.1×10^{-4}	1.6×10^{-3}																																																																																																																																																							
	塩酸⑨-2	9.4×10^{-4}																																																																																																																																																								
	メタノール⑫	3.0×10^{-4}																																																																																																																																																								
	ガソリン⑮	1.1×10^{-5}																																																																																																																																																								
E	アンモニア④																																																																																																																																																									
	塩酸④-1																																																																																																																																																									
	塩酸④-2																																																																																																																																																									
	硝酸④																																																																																																																																																									
	メタノール④																																																																																																																																																									
	アンモニア⑤	4.4×10^{-1}																																																																																																																																																								
	ガソリン⑬																																																																																																																																																									
	塩化水素⑰	1.1×10^{-3}																																																																																																																																																								
	硫化水素⑰	1.1×10^{-2}																																																																																																																																																								
ESE	硝酸⑩-1	6.7×10^{-3}	1.8×10^{-2}																																																																																																																																																							
	硝酸⑩-2	1.2×10^{-2}																																																																																																																																																								
SE	—	—		—	—																																																																																																																																																					
SSE	—	—		—	—																																																																																																																																																					
S	—	—		—	—																																																																																																																																																					
SSW	アンモニア⑥	2.7×10^{-3}	4.6×10^{-2}	4.6×10^{-2}	影響なし																																																																																																																																																					
	アンモニア⑦	1.5×10^{-3}																																																																																																																																																								
	ガソリン⑮	4.2×10^{-2}																																																																																																																																																								
SW	—	—		—	—																																																																																																																																																					
WSW	—	—		—	—																																																																																																																																																					
W	溶融炉アンモニアタンク	1.9×10^{-2}		1.9×10^{-2}	影響なし																																																																																																																																																					
WNW	—	—		—	—																																																																																																																																																					
NW	—	—		—	—																																																																																																																																																					
NNW	アンモニア③																																																																																																																																																									
	塩酸③-1																																																																																																																																																									
	塩酸③-2																																																																																																																																																									
	塩酸③-3																																																																																																																																																									

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																																			
	<p style="text-align: center;">第5表 固定源による有毒ガス影響評価結果 (3/7)</p> <p style="text-align: center;">(東側接続口①)</p> <table border="1" data-bbox="1359 415 2499 646"> <thead> <tr> <th rowspan="2">固定源</th> <th rowspan="2">着目方位^{※1}</th> <th rowspan="2">蒸発率 (kg/s)</th> <th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th> <th colspan="3">評価結果</th> </tr> <tr> <th>評価点における 有毒ガス濃度^{※2} (ppm)</th> <th>防護判断 基準値 との比</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内 溶融炉 アンモニア タンク</td> <td>NNW, NW, WNW, W, WSW</td> <td>1.0×10⁻¹</td> <td>3.9×10⁻⁴</td> <td>5.7×10¹</td> <td>1.9×10⁻¹</td> <td>影響 なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 発生源から評価点を見た方位 ※2 外気取入口における濃度。25℃ (298.15K) , 1気圧におけるアンモニア (モル質量 17.0g/mol) の体積分率</p> <p style="text-align: center;">第5表 固定源による有毒ガス影響評価結果 (4/7)</p> <p style="text-align: center;">(東側接続口②)</p> <table border="1" data-bbox="1359 961 2499 1192"> <thead> <tr> <th rowspan="2">固定源</th> <th rowspan="2">着目方位^{※1}</th> <th rowspan="2">蒸発率 (kg/s)</th> <th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th> <th colspan="3">評価結果</th> </tr> <tr> <th>評価点における 有毒ガス濃度^{※2} (ppm)</th> <th>防護判断 基準値 との比</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内 溶融炉 アンモニア タンク</td> <td>NNW, NW, WNW, W, WSW, SW</td> <td>9.0×10⁻²</td> <td>5.1×10⁻⁴</td> <td>6.6×10¹</td> <td>2.2×10⁻¹</td> <td>影響 なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 発生源から評価点を見た方位 ※2 外気取入口における濃度。25℃ (298.15K) , 1気圧におけるアンモニア (モル質量 17.0g/mol) の体積分率</p> <p style="text-align: center;">第5表 固定源による有毒ガス影響評価結果 (5/7)</p> <p style="text-align: center;">(高所東側接続口)</p> <table border="1" data-bbox="1359 1507 2499 1749"> <thead> <tr> <th rowspan="2">固定源</th> <th rowspan="2">着目方位^{※1}</th> <th rowspan="2">蒸発率 (kg/s)</th> <th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th> <th colspan="3">評価結果</th> </tr> <tr> <th>評価点における 有毒ガス濃度^{※2} (ppm)</th> <th>防護判断 基準値 との比</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内 溶融炉 アンモニア タンク</td> <td>W, WSW, SW</td> <td>4.3×10⁻²</td> <td>5.2×10⁻⁴</td> <td>3.2×10¹</td> <td>1.1×10⁻¹</td> <td>影響 なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 発生源から評価点を見た方位 ※2 外気取入口における濃度。25℃ (298.15K) , 1気圧におけるアンモニア (モル質量 17.0g/mol) の体積分率</p>	固定源	着目方位 ^{※1}	蒸発率 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果			評価点における 有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断 基準値 との比	評価	敷地内 溶融炉 アンモニア タンク	NNW, NW, WNW, W, WSW	1.0×10 ⁻¹	3.9×10 ⁻⁴	5.7×10 ¹	1.9×10 ⁻¹	影響 なし	固定源	着目方位 ^{※1}	蒸発率 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果			評価点における 有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断 基準値 との比	評価	敷地内 溶融炉 アンモニア タンク	NNW, NW, WNW, W, WSW, SW	9.0×10 ⁻²	5.1×10 ⁻⁴	6.6×10 ¹	2.2×10 ⁻¹	影響 なし	固定源	着目方位 ^{※1}	蒸発率 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果			評価点における 有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断 基準値 との比	評価	敷地内 溶融炉 アンモニア タンク	W, WSW, SW	4.3×10 ⁻²	5.2×10 ⁻⁴	3.2×10 ¹	1.1×10 ⁻¹	影響 なし	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>
固定源	着目方位 ^{※1}					蒸発率 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果																																													
		評価点における 有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断 基準値 との比	評価																																																	
敷地内 溶融炉 アンモニア タンク	NNW, NW, WNW, W, WSW	1.0×10 ⁻¹	3.9×10 ⁻⁴	5.7×10 ¹	1.9×10 ⁻¹	影響 なし																																															
固定源	着目方位 ^{※1}	蒸発率 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果																																																	
				評価点における 有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断 基準値 との比	評価																																															
敷地内 溶融炉 アンモニア タンク	NNW, NW, WNW, W, WSW, SW	9.0×10 ⁻²	5.1×10 ⁻⁴	6.6×10 ¹	2.2×10 ⁻¹	影響 なし																																															
固定源	着目方位 ^{※1}	蒸発率 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果																																																	
				評価点における 有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断 基準値 との比	評価																																															
敷地内 溶融炉 アンモニア タンク	W, WSW, SW	4.3×10 ⁻²	5.2×10 ⁻⁴	3.2×10 ¹	1.1×10 ⁻¹	影響 なし																																															

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																						
	<p style="text-align: center;">第5表 固定源による有毒ガス影響評価結果 (6/7)</p> <p style="text-align: center;">(西側接続口)</p> <table border="1" data-bbox="1371 415 2499 646"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th rowspan="2">着目方位^{※1}</th> <th rowspan="2">蒸発率 (kg/s)</th> <th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th> <th colspan="3">評価結果</th> </tr> <tr> <th>評価点における 有毒ガス濃度^{※2} (ppm)</th> <th>防護判断 基準値 との比</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>熔融炉 アンモニア タンク</td> <td>NNW, NW, WNW, W, WSW, SW</td> <td>5.6×10^{-2}</td> <td>5.1×10^{-4}</td> <td>4.1×10^1</td> <td>1.4×10^{-1}</td> <td>影響 なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 発生源から評価点を見た方位 ※2 外気取入口における濃度。25℃ (298.15K) , 1気圧におけるアンモニア (モル質量 17.0g/mol) の体積分率</p> <p style="text-align: center;">第5表 固定源による有毒ガス影響評価結果 (7/7)</p> <p style="text-align: center;">(高所西側接続口)</p> <table border="1" data-bbox="1380 961 2490 1192"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th rowspan="2">着目方位^{※1}</th> <th rowspan="2">蒸発率 (kg/s)</th> <th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th> <th colspan="3">評価結果</th> </tr> <tr> <th>評価点における 有毒ガス濃度^{※2} (ppm)</th> <th>防護判断 基準値 との比</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>熔融炉 アンモニア タンク</td> <td>W, WSW, SW</td> <td>2.4×10^{-2}</td> <td>7.8×10^{-4}</td> <td>2.7×10^1</td> <td>9.1×10^{-2}</td> <td>影響 なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 発生源から評価点を見た方位 ※2 外気取入口における濃度。25℃ (298.15K) , 1気圧におけるアンモニア (モル質量 17.0g/mol) の体積分率</p>	固定源		着目方位 ^{※1}	蒸発率 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果			評価点における 有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断 基準値 との比	評価	敷地内	熔融炉 アンモニア タンク	NNW, NW, WNW, W, WSW, SW	5.6×10^{-2}	5.1×10^{-4}	4.1×10^1	1.4×10^{-1}	影響 なし	固定源		着目方位 ^{※1}	蒸発率 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果			評価点における 有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断 基準値 との比	評価	敷地内	熔融炉 アンモニア タンク	W, WSW, SW	2.4×10^{-2}	7.8×10^{-4}	2.7×10^1	9.1×10^{-2}	影響 なし	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>
固定源							着目方位 ^{※1}	蒸発率 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果																														
		評価点における 有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断 基準値 との比	評価																																				
敷地内	熔融炉 アンモニア タンク	NNW, NW, WNW, W, WSW, SW	5.6×10^{-2}	5.1×10^{-4}	4.1×10^1	1.4×10^{-1}	影響 なし																																	
固定源		着目方位 ^{※1}	蒸発率 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果																																			
					評価点における 有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断 基準値 との比	評価																																	
敷地内	熔融炉 アンモニア タンク	W, WSW, SW	2.4×10^{-2}	7.8×10^{-4}	2.7×10^1	9.1×10^{-2}	影響 なし																																	